

翻案シエイクスピア恋模様四篇

『シンベリン』『恋の骨折り損』『十二夜』『から騒ぎ』

作／村野玲子

登場人物

『ハーバーリン』 pp. 3-18 ————— [2014年執筆]

ポステュマス  
イモージョン  
クロートン  
ピザーニオ  
王妃

『恋の骨折り損』 pp. 19-39 ————— [2013年執筆]

男1／女4  
男2／女3  
男3／女2  
男4／女1  
マスター

通りすがりの女

『十一夜』 pp. 40-55 ————— [2016年執筆]

マルヴォーリオ  
トービー  
フェステ  
マライア  
オリヴィア

『かみ騒ぎ』 pp. 56-72 ————— [2015年執筆]

俳優1  
警部／俳優2  
夜番1  
夜番2  
夜番3

## 『シンベリン』

0

ポステュマス登場。

ポステュマス　どうも。初めまして、僕、ポステュマスと言います。嫁はイモージエンといって、何と僕の生まれたブリテン王国のお姫さまで。僕たちは幼なじみとして一緒に育つたんですね。で、年頃になつて思いが通じちゃつたと。しようがないですね、好きなものは好きなんですから。

二人で結婚式を挙げましたよ。腕輪の交換なんかしちゃつたりして。幸せだつたな。

ところが、それを知ったお父上様、シンベリンという王様なんですが、この人が怒つちやつてね。身分違いの結婚は絶対に許さんと、大反対されちゃつたんです。おつかなかつた。でもうちの奥さんも負けてなくてですね、私がこの人を選んだのはお父さまが遊び相手にあてがつたからですわ、なんて啖呵切つちやつたりして。なんだとこら、やるかこら、とまるで広島ヤクザみたいな大ゲンカ。

困つたな、どうすつかな、これ下手したら死刑かな、なんて考え込んでるうちに、僕だけ追放されることになつちやいました。えへ。寂しいな。やるせないですね。

で、僕の飛ばされた先はイタリアはローマ、愛と欲望と芸術の都。遠かつた。でもここがね、すごいんだ。いろんな誘惑がある。綺麗、おいしい、美しい、素晴らしい。もう毎日感動。刺激的。一生ここに居たら飽きないだろうなと思ひます。でも違う。僕の都はここじゃない。イモージエン、ああ、イモージエン。君こそが僕の都、僕の国。僕は君という国家の、たつた一人の国民だ。そして君は僕の国民。イエス、この愛に変わりはない。互いに交わしたこの腕輪こそがその証。丈夫、また会える日がきつと来る。

そう信じて、日々暮らしているところです。

ただ一つ、心配があります。クロートンという男が、彼女につきまとつてゐるんです。王様がついこないだ再婚したんですけど、その王妃の連れ子です。なので今は王子という身分

なんですが、こいつがね、僕が言うのもなんですが、本当にどうしようもない奴でして。まあ彼女がなびくことはないと思いますが、僕の信頼する部下ピザーニオもそばにいることだし。でもね、何とも憂鬱の種ではあるんです。大丈夫かな。心配だな。いや、でもな……。

ポステュマス、行く。

1

クロートン、イモージエン、ピザーニオ。

クロートン おはよう、イモ子。

イモージエン :

イモージエン :

クロートン イモ子。

イモージエン イモージエン。私の名前はイモージエン。その変な呼び方

クロートン やめてください。

イモージエン なんで？ 妹だからイモ子で、イモージエンだからイモ子。

ダブルミーニングだよ、お洒落だよ。

イモージエン お洒落が聞いて呆れてブルーインパルスでキャット空中三回転だわ。

クロートン 何？ キヤツト？

イモージエン ああもういい。お願ひだからどつか行つて。ねえピザーニ

オ、何とかして。あ、言い忘れてた、おはよう、ピザオ。

ピザーニオ ピザーニオです。

クロートン ちぢめてピザオ。いいあだ名だろ？

ピザーニオ はあ。

クロートン はあじやねえよ。

ピザーニオ は。

クロートン ありがとうございます。言つてみる。

ピザーニオ ありがとうございます。

クロートン 頭が高い。

ピザーニオ (頭を下げ) ありがとうございます。

クロートン あはは、ねえほら、見た見たイモ子？ 下げたよ、頭。大の大人がさ。イモ子も呼びなよ、呼んでいいよ、今日からこいつをピザオつて。

イモージエン 呼ばないし。

クロートン ねえ、遊ぼうよ。お医者さんごっこしようよ。

イモージエン しない。

クロートン イタリアに行つたバカとは散々遊んでたんだろ、いろんな遊びをさ。

イモージエン ええ、そうね。詩を読んだり、歌を歌つたり、花の名前を調べたり。私と夫は文化的かつ、清くスピリチュアルな関係でして。

クロートン ええ、何それ、つまんない。イモ子は本当の楽しさを知らないんだよ。世は広いのに、かわいそう。大丈夫、僕がおしえてあげる。新しい扉を開こう。大人の遊びをしよう。甘いお菓子は卒業だ、赤い血がしたたるステーキの世界へ。

イモージエン （本を読みだす）

クロートン あつ、本を読むの？ えらいね、日課の読書だね。読書にはBGMがつきものだ。僕とピザオで歌つてあげるね。ピザオ、並んで。せえの、

クロートン 朝だ 朝だ 起きてるね

イモ子はえらい 本を読む  
なんでも知つてる賢いイモ子

僕のお嫁さんにぴつたりだ

ピザーニオ （クロートンにやや遅れながら小声で歌う）

イモージエン うるさい。あんたわかつてんの、私人妻よ？

クロートン 認められない結婚だろ？

イモージエン お父様は認めなくとも神様は認めてくれます。この腕輪がその証。

クロートン でもあいつはローマだろ。

イモージエン 離れていても心は一つ。私たち、愛し合つてますから。

クロートン そうかなあ。行つたのつていつごろだつけ。先月だつけ。も

うイタリア女に目移りしてた頃じやない？

イモージエン あんたと違うの。

クロートン イタリアは娼婦が多いらしいからな。それとこれとは別腹だつて、今頃むさぼりついてるんじやない？

イモージエン （本を音読し）Yの無遠慮には、何となく私の眉をひそめさす、いやな誇張がありました。はじめのうち、私はYの行為に眉をひそめずにはいられない自分の気持ちを振り返つて、

「これは、私の方が無理なのだろうか」と思つてみました。

クロートン

(かまわづ) ローマはいい街だつて聞いたぞ。豊かな食事、

イモージエン

けれども、私はどうしてもYの行為を心から許す気にはなれませんでした。

クロートン

そして豊かな夜のひととき。

イモージエン

…

クロートン

怒った。怒った、怒った。怒った、イモ子？

イモージエン

お願い。生きてていいから、せめて私の視界から消えて。

クロートン

ひどい、ひどいな、イモ子。僕はこんなにイモ子のことが好きなのに。お医者さんごっこしたいだけなのに。

ピザーニオ

クロートン 様、行きましょう。

ピザーニオ

なあ、おまえはどう思う？男としては、遠くのピザより、近くのうどんだろ。おなか減つたら食べちゃうだろ。

ピザーニオ

(笑い) おたわむれを。人それぞれにございます。

クロートン

ご主人様思いだな。よし、気に入った、僕の手下にしてやるう。

ピザーニオ

いえ、私は。

クロートン

何だよ、出世したくないの？ 美味しいもの食べたいでしょ、いい女抱きたいでしょ？ かなえてやるよ、おかーたまに言つて。

イモージエン

呪われた親子ね。脳の髄まで汚れた水が詰まつてゐる。

クロートン

おかーたまに失礼なこというな。

イモージエン

たまだかザルだか知らないけど、その薄い脳みそ垂れ流さないよう、さつさと部屋に戻りなさい。

クロートン

なんだよ、イモ。おまえなんかイモだ。かわいくてもな、憎いときもあるんだぞ。いいもんね、おかーたまに言いつけて

やる。おかーたまは偉いんだぞ、なんたつてお妃様なんだからな。おまえなんか単なる姫だろ、おかーたまの方がずっとずうつと上だ。

イモージエン

行つて。お願ひ、ピザーニオ。

クロートン

イモ子。

王妃、通りかかる。

王妃

あら、王子と姫と、おそろいね。

クロートン

おかげたま。

王妃

仲良くしてちようだいね、もうすぐ夫婦になるんだから。

イモージェン　お断りします。

王妃

あなたの意志は関係ないの。この国の未来に関わることなんですから。クロートン、あなたはシンベリンの後を継いで、この国の王様になるんですよ。

クロートン　うん。

イモージェン　つかあ。

王妃

そしてイモ、いえイモージェン、あなたはその妻となる。大丈夫、悪いようにはしないから。

イモージェン　いや、いやいや、絶対にいや。私は守る、純潔を。あの人と再び会えるその日まで。誓いを込めたこの腕輪にかけて、私は信じて暮らします、二人の遠い、幸せな未来を。

幻想のポステュマス、現れる。

ポステュマス　イモージェン。

イモージェン　あなた。

2

イタリアで一人過ごすポステュマス。  
住まいへの帰路。

ポステュマス　どうも、ありがとうございました。また飲みましょう。チヤオ。お気をつけて。グラシアス。（手を振る）楽しいな、イタリア。いい街だ。女人もみんな綺麗。晴れ渡る空、くつきりした緑。ブリテンとは大違いだ。あそこは基本が曇りだからな。どうしたつてこう、内に内にこもるよね。人間関係も泥つくし。泥か。

イモージェン、元気かな。こないだまた手紙がきたけど、心配だな、大丈夫かな。会いたい会いたい会いたいーで一枚、ポステュマスポステュマスポステュマスーで一枚。宿題の漢字ドリルみたいになつてる。やばいよね、やられちゃつてるよね。心配だな。僕だつて会いたい、会いたいよ、イモージェン。

ポステュマス、帰つて行く。  
戻つてくる。

やっぱおかしいよね、あの手紙。追い詰められてるとしか思えない。何かあつたのかな。  
あつ、まさかクロートンに。  
何でことだ。

おい、馬、馬はどこだ。  
いた。

おい、そこの馬番、港まで借りるぞ。ブリテンに行くんだ。

ポステュマス、去る。  
戻つてくる。

いやいやいや、そんな憶測で動いちゃいけない。だって僕は追放の身。シンベリン王に見つかったら、それこそ死刑だ。元も子もない。慎重にいけ、慎重に。  
そうだ、それにもし何かあつたらピザーニオが連絡してくるはず。

大丈夫、信じろ。そうだ。

ポステュマス、帰つて行く。  
戻つてくる。

イモージェン、あの馬鹿王子と結婚して、変わらず姫ライフを送った方が幸せなんじやないかな。僕みたいな貧乏人と一緒になつても、楽しいことなんて一つもないんじやないか？  
出世するとも思えないし。

いや違う、大丈夫、会いたい会いたいポステュマスなんだから。僕だって、会いたい会いたいイモージェンなんだから。  
離れていても心は一つ。大丈夫。それにピザーニオだつているし。あいつは僕の部下だ、信頼できる部下、誠実な男……  
(帰りかけ、戻る)

でも、もしピザーニオが裏切つたら？ イモージェンは一人ぼっちだ。女一人、身を守る術もなく。そこへあの馬鹿王子が……彼女の寝室に忍び込み……  
きやあクロートン。

ピザーニオ、ピザーニオどこ？

へつへつへ、あいつけ金で買収したよ。

そんな。

観念しろ。清い体をウォールペインントしてやる。

いや、やめて、カラフルにしないで。

大人しくしろ。姫と王子で子供をつくるは、ブリテンの未来をつくると同義。これぞ王族のしかるべき営み。覚悟。

きやあ。

ああ、でも仕方ない、私やつぱり姫だもの。自由など絵に描いた餅。

ごめんなさい、あなた。私クロートンと結婚するわ。さようなら。

腕輪、コトン。

許せーん。

馬だ、おい、馬を貸せ。代わりに王国をくれてやる、僕のじやないけど。馬だ。貧乏人をバカにするな。

ポステュマス、去る。

3

クロートン、やつてくる。

クロートン  
イーモー子。あーそーぼ。

ピザーニオ  
(現れ) おはようございます、クロートン様。

クロートン  
起きてる? 僕のお嫁さん。

ピザーニオ  
まあ、起きてはおられますが。

クロートン  
支度中か。いいよ、待つてる。女はいろいろあるからな。

ピザーニオ  
お会いしたくないと。

クロートン  
えつ、どうしたの? おなかいたいの?

ピザーニオ  
いえ、その、クロートン様に、お会いしたくないと。

クロートン  
(かまわず) イモ子、大丈夫? イモ子。お薬いる? 持つ

てこようか? あの日? あの日?

ピザーニオ  
クロートン様、

イモージエン  
(現れ) だから会いたくないつづてんでしょ。

クロートン  
よかつた、元気だ。おはよう、イモ子。BGMを歌いにきた

よ。ほら、ピザオ、

イモージェン 結構です。

クロートン あれ、いいの？ そうか、やっぱり具合が悪いんだね。（手を出し）ほら、おなか出して。僕は気功ができるんだ。

イモージェン はつきり言わせてもらいます。私はあなたが嫌いなの。

クロートン ん？

イモージェン あなたがいると具合が悪くなるの。だから二度と、私の視界に入らないで。私の前から消え失せて。同じ空気も吸いたくない、できることなら。

クロートン ん？

イモージェン でもこのブリテンにいる限り、あなたの気配はなくならない。今すぐにでもここを出て、あの人のところに行きたい。けど、今はお父さまの目もあるからそれも無理。だからじつと耐えてるの。このブリテンに耐えてるの。の人とまた一緒になれる、その時を思うことだけが私の希望、私の喜び。この腕輪こそがその証。

クロートン 大丈夫？

イモージェン だからあんたがいる限り大丈夫じゃないっての。

クロートン 頭、おかしいの？

イモージェン はあ？

クロートン 君、姫だよ。僕、王子。ブリテンの未来は、僕たちにかかる

イモージェン いや。絶対にいや。

クロートン わがままだな、イモ子は。いい加減諦めなよ。ね、ピザオ。しようがないよね。自分がどうしたいかなんて関係ないんだ、

王族である以上。これは義務だよ。仕事だよ。

イモージェン 死んでやる。

クロートン 死ねないよ。君にそんな勇気はない。それに、ピザオがそれを許さない。ね、ピザオ。

イモージェン そんなことない。ね、この人と一緒にさせられるくらいなら、殺してくれるわよね、ピザーニオ。

クロートン 守るよね、ピザオ。

イモージェン ピザーニオ。

クロートン ピザオ。

イモージェン ピザーニオ。

ピザーニオ ああ、ええ、その時になつてみないと、何とも。いずれにせよ、私は姫様を大切に思つております。

クロートン ふうん、綺麗にまとめたな。

イモージエン 遠慮しないでいいからね。寝てる間に、パンとやつてくれればいいから。苦しまないようには。

ピザーニオ

クロートン ねえイモ子、そんなにやなの？ 僕と結婚。

イモージエン 嫌ですね。

クロートン なんで？ 僕、大事にするよ。おかげたまだって優しいよ。

イモージエン あんたも嫌だし、あんたのそのおかげたまつてのも嫌なの。

お父さまに取り入つて。下心スケスケの下品な女。お父さまがおかしくなつたのも、あの女との再婚のせいよ。

クロートン おかげたまを愚弄するな。

ピザーニオ どうどうどう。

イモージエン 愚弄じやない、事実。お父さまがあの人をイタリアに追放したのも、あの女の入れ知恵でしょ。あんたと私を結婚させて、あんたを世継ぎにするために。乗らないわよ、そんな話。私を政治の道具にしないで。

クロートン してないよ。僕がイモ子を好きなんだ。ただそれだけ。おかげたまはちょっと不器用な僕を応援してくれるんだ。

イモージエン だからわかつて。私、人妻、私、人妻。

クロートン あんな貧乏人のどこがいいんだよ。

イモージエン ポロは着ても心は錦。私は彼の人間としての本質を愛するの。

クロートン 僕だつてあるぞ、本質。

イモージエン あの人と真逆のかたちでね。中身スカスカ、着飾れ錦。せいぜいきらびやかに暮らしてちょうどいい。中が透けないよう、厚着でね。

クロートン 失礼だぞ。

ピザーニオ どうどうどう。

イモージエン おかげたまに言えば？ あんたの強くて優しい、ヒルのよう

うに王座に吸い付いて離れない、生命力あふれる、たくましいおかげたまに。ついでに私もイタリアに追放してちょうどいい。

クロートン おまえは僕と結婚するんだ。

イモージエン 嫌だつて言つてんでしょ。あんたなんて、あの人以下の以

下の以下の、イカ釣り漁船の夏祭りよ。そんなのと玉座に座るくらいなら、こんな王国、燃えちやばいい。

クロートン 言つたな。

イモージエン 何とでも言つてやるわ。イカ、タコ、マグロ、サザエ、ア

ユ、サケ、イワシ、ナマコ、ハタハタ。あんたなんか最低。  
クロートン  
わーん、

ピザーニオ

ストップ。はい、ストップ、朝のスパーリング、ここまで。  
いや、今日も盛り上りましたね。冷たいお飲物は？ いりませんか？ いりませんね。はい、じやあ解散。解散ですよ、解散。

クロートン

絶対後悔させてやるからな。

イモージェン

私は真実を述べたまで。

ピザーニオ

はい、帰りますよ。お部屋に帰る。

解散、解散。

イモージェン

ふん。

イモージェン、去る。

クロートン

ねえ。ピザオ、どうよ、今はどうよ。言い過ぎじゃね？ ちょ

ピザーニオ

つとあんまりじゃね？

クロートン

まあまあまあ。

ピザーニオ

超むかつく。超腹立つ。

クロートン

お察し申し上げます。

クロートン

こっちだつて超がんばつてんだつつうの。毎日超早起きして

ピザーニオ

え、歌とかいっぱい仕込んでえ、

クロートン

大変ですよね。

王妃、通りかかる。

王妃

あらクロちゃん、どうしたの？

クロートン

おかーたま。

王妃

(ピザーニオに) どうも、お世話さま。偉いわね、今日もあのイモ娘にご挨拶に来たの？

クロートン

うん。

王妃

大丈夫？ ちゃんとお話をできた？

クロートン

あ、まあ、そうね、それなりに。ね。

ピザーニオ

(曖昧な笑い)

王妃

そう。頑張るのよ。大事なのはコミュニケーションだからね。挨拶から始まって、天気の話、ささやかな出来事のお話。あまり大きな事件事故の話は駄目よ、重くなるから。最近また涼しくなりましたね、ええ本当、あ、そういうえば今年は小麦が例年より豊作らしいですよ。そんなんですか、それはよしかつた、パン屋がリスクを恐れず新作を出せそうですね、楽し

みだなあ、とこういくの。あくまでライトに、フレンドリー

にね。するとやがて相手も警戒心が溶けて、個人的なお話へうつる。私、実は寂しくて……。心を開くには段階が必要、特に女の場合はね。繊細に、柔らかくよ。いい?

クロートン

王妃

いい子。ピザオちゃんとも仲良くやるのよ。ではどうも、失礼します。

ピザーニオ

クロートン

（返礼）  
ばいばい、おかーたま。

王妃、行く。

クロートン

ピザーニオ

それは同感にござります。

僕さ、せめてイモ子と普通にお話できるレベルにはいきたいわけ。だからさ、ちょっとだけでも一人にしてくれない？ そうじやないとほら、王子としてもさ、立つ瀬ないっていうのかつこつかないっていうの？

何だよそれ、隠居の爺さんじやん。若い娘が、かわいそそうだな。

ああ、まあ。

（金を握らせる）  
いけません。

（無理やり握らせ） とつといて。今だけでも。あとで捨てていいから。

（受け取る）  
ちよつとの間、散歩しにいってくれるかな。

かしこまりました。

ああ、おい、ピザオ。

ピザーニオ  
クロートン  
ピザーニオ

何です？  
おかーたまには（内緒）  
（内緒）

ピザーニオ、行く。

クロートン バーカ。ほんと、人のいいやつ。お話できるレベル？ どんなレベルだよ。あの高慢な女が俺とまともに話すると思うか？ ここまできたら、もう無理だ。コミュニケーション以前の問題だ、言葉なんか通じない。だから最後の一撃。体に教え込んでやる。あいつの純白の体を、ウォールペイントしてやる。俺の絵筆でカラフルに染め上げてやる。

クロートン、行く。

4

イモージエンの部屋。  
イモージエン、読書をしている。  
うたた寝をする。

王妃が現れる。

小さな声で、イモージエンの耳元に囁きかける。

クロちゃんを好きになあれ、クロちゃんを好きになあれ。

イモージエンの腕輪を見る。  
王妃、腕輪をそつと抜き取る。

愛は形じゃないのよ。

王妃

何者かの気配。  
王妃、隠れる。

クロートン、現れる。  
クロートン、イモージエンに忍び寄り、見とれる。

王妃

王妃

クロートン かわいいな。

襲おうとする。

何者かの気配。

クロートン、隠れる。

ピザーニオ、現れる。

ピザーニオ イモージエン様、お風邪を召されますよ。

ピザーニオ、イモージエンの本を閉じてやる。  
何者かの気配。

ピザーニオ、隠れる。

ポステュマス、現れる。  
イモージエンを見つめる。

ポステュマス かわいいな。ん。

腕輪がないことに気づく。

ポステュマス くおつ。ぬおつ。

ポステュマス、身悶える。  
ポステュマス、剣を抜き、イモージエンを殺そうとする。

ポステュマス 裏切り者めが。  
ピザーニオ なりません。

ピザーニオ、現れ、ポステュマスを止める。

ポステュマス 裏切つたな。  
ピザーニオ めつそうもございません。  
ポステュマス ならばやれ。  
ピザーニオ 私が?  
ポステュマス そうだ。やれ。

ピザーニオ できません。

ポステュマス やれ。

ピザーニオ できません。

ポステュマス やれ。

ピザーニオ 無理です。

ポステュマス、剣をとる。

ピザーニオ、それを奪う。

奪つた勢いで、剣先が隠れていたクロートンを刺して

しまう。

クロートン うぐつ。

ポステュマス・ピザーニオ えつ。

クロートン (現れ) あああ、

ピザーニオ クロートン様、

イモージエン (目覚め) ん?

クロートン 僕じやないのに。

クロートン、倒れる。

イモージエン きやあ、

王妃 (駆け寄り) いや、クロちゃん、クロちゃん。

イモージエン 何、なになに?

ポステュマス 僕じやないから。

ピザーニオ そりやないよ。

イモージエン あなた。

王妃 クロちゃん、

イモージエン やだ、何、どうしたの、

ポステュマス 寄るな、雌豚、汚らわしい。

イモージエン え、何? どうしたの?

ポステュマス 腕輪がない。その事実こそ、不義の証。

王妃 クロちゃん。

イモージエン え? あれ、ほんとだ、ない。

王妃 クロちゃん。

ポステュマス クロートンと契つたな。

イモージエン んなわけないじやん。やだ、どこやつたんだろ。

ポステュマス 裏切り者め。

イモージエン ピザーニオ、知らない?

ピザーニオ いえ、私は。  
ポステュマス あつ、貴様。さては貴様か、浮氣相手は。  
イモージエン 違うつて。／ ピザーニオ 違いますつて。  
ポステュマス 息があるな。呼吸をあわせたということか。そこへなおれ。  
ご所望だろう、二人そろって同じ冥土に送つてやるわ。土産  
は駅で買つて行け。地獄行きの各駅停車、（剣をかまえる）  
ピザーニオ 旦那様、  
ポステュマス 発車します。（振り上げる）  
王妃 お待ちなさい。腕輪はここに。イモ子は何も悪くない。責め  
るなら、この私を。

王妃 あなたに少しでも、クロちゃんを振り向いてほしくて、今日  
もまじないをかけにきました。そしてこの腕輪を。ああ。  
出来が悪いとわかっていても、二人といない愛しい我が子。  
この子のために、この子のためにと精一杯、とうとうのぼつ  
た、玉座まで。けれど今、私の炎は燃え尽きた。さよならクロ  
ちゃん、また後で。  
さあ殺せ。生きながらえても虚しいばかり。殺せ、殺せ、殺  
しなさいつたら。

5

王妃 クロートン ああ、びっくりした。  
王妃 クロちゃん。なあに、どうしたの、おかーたまはその手の類  
の冗談は冗談とみなさないわ。  
クロートン ごめんね、ちょっとびっくりしすぎて意識がとんじやつた。  
王妃 やだ。よかつた、おかげたま安心。皆さんどうも、お騒がせ  
しました。じゃ、クロちゃん。（行こうとする）  
クロートン うん。  
イモージエン ちよつと待ちなさいよ。何でこちらにいらつしやるわけ?  
王妃 ここ、私の部屋なんんですけど。みなさんも。  
ピザーニオ 私はほら、お付きですか。  
イモージエン そうよね。（ポステュマスを見る）

ポステュマス あー、

イモージエン ようこそおいでくださいました、追放先からわざわざ。

王妃 あ、じやあ、わかつた、こうしましょ。あなたたちのことを

王様にとりなして差し上げる。どう？

クロートン えー、

王妃 クロちゃんにはもつと素敵な花嫁さん見つけてあげるから。

クロートン うん。（イモージエンに）残念に思うなよ。

イモージエン （ポステュマスに）あんたさつきなんつった？

ポステュマス 何が？

イモージエン さつき、私に向かって、裏切り者つて言つたよね。あと何、

雌豚？

ポステュマス いや、まあ、その。口癖？

イモージエン へえ。どんなときに言うの？ 雌豚。朝起きて雌豚？ 食

事して雌豚？ お茶飲んで雌豚？ おやすみで雌豚？

ピザーニオ 姫様、意味は、意味。あつ、とか、ちえつとか、そんな感じ？

ポステュマス だつて腕輪がなかつたんだもん。

王妃 だからほら、腕輪はここに。

イモージエン 腕輪してたらいいわけ？ 他の男とどうにかなつてもいいわけ？ なんなのその形式主義。

王妃 腕輪、

クロートン おかげたま、

ポステュマス 心配だつたんだよ。だつて変な手紙よこすんだもん。

イモージエン 変な手紙つて何よ。私は思いのだけをつづつたの。いわば

呼び？

王妃 腕輪、

クロートン おかげたま、

イモージエン 怖いつて何？私の思いが怖いわけ？

ポステュマス ごめんなさい、

王妃

腕輪、

クロートン おかげたま、

イモージエン あなた、

ポステュマス ごめんなさい、

ピザーニオ （二人を制し）ご結婚、おめでとうございます。



## 『恋の骨折り損』

※ 條で囲まれている部分は、実際の上演環境に合わせて変更すること。

1

男（マスター） こんなには。綾田将二でございます。猛暑の夏が去り、  
だいぶ涼しくなりましたね。ようやく秋の姿がおぼろげに見えて  
きたところでございますが、みなさいかがお過ごしでしょうか。  
僕はといえば、なんとですね、最近恋人ができました。ありがとうございます。  
ありがとうございます、ありがとうございます。どんな人かは秘密です。ちゃんと三次元ですよ。

でもこの恋というもの、特に付き合うまでは本当に厄介なもので  
「何考えてんだろ」「嫌われないかな」「迷惑じゃないかな」と相手  
の気持ちを探つてばかり。まつすぐ相手に尋ねればいいのに、それ  
も無神経と思われそうで怖くてできない。

そして、そんなふうに悩んでいる時に、隣に誰かがそつと居て「大  
丈夫」「がんばれ」とただ応援してくれるだけならいいですが、近  
しい仲間はそういうわけにはまいりません。何のかのと口を出し、  
大きなお世話になつたりもします。

本日はそんなお話でございます。原作ウイリアム・シェイクスピア  
『恋の骨折り損』お運びいただきありがとうございます。どうぞご  
ゆっくりお楽しみください。（一礼）

あれ、お客様かな。いらっしゃいませ。

男1 四人、いける？

マスター ええ、お好きな席へどうぞ。（奥へ声かけ）はい四名様、ご来

店。（行く）

男四人、席に座る。居酒屋。

男1（王様） いやいやいや。

男2（ビローン） やっぱ、こういう店のが落ち着きますね。

男3 メニューはと。あ、貼つてあるのか。

男2 やつこと、煮込み、もろきゅうと、あと枝豆かな。

男4 あ、黒板、今日のおすすめもありますよ。

三崎港真イカのポン酢和えですって。

ええ、イカは酢味噌だろ。  
おまえら、何楽しんでんの？  
え、注文決めてるだけですけど。  
だめだめだめ、全然だめ。わかつてる？ 惨敗なんだよ。

ああ。  
まあ。  
そうですかね。

おまえらそもそも非協力的すぎるよ。全員野球だつて言つただろ。  
すみません。

あれじや、俺が全ボジやつてるようなもんじやん。投げて、打つて、  
走つてさ。おかげでゴール前ガラ空きだつつうの。  
それサッカー。

あ、今日浦和の試合、予約忘れた。

え、マジか。テレビつけてもらう？

テレビあります？

あ、そこ。  
ほんとだ。

いいよ、いらぬ。

ええ、／男3 すみません、大丈夫です。

ビローン。おまえフォワードつて、俺言つたよな。何でタマ持つて  
んのに走らねんだよ。バントばっかりしやがつて。

何がですか？

さつきの話だよ。

ああ。え、走りましたよ。超走りました、オフサイドギリギリまで  
攻めました。ましたけど、王様が勝手にゴール前から出てきたんじ  
やないですか。

好きで出たんじやないの。見てられなかつたんだよ、おまえも、お  
まえも。

すいません。

ええ、

反省しろよ。お前ら送りバントばつかじやねえか。送る相手もいな  
いのにバント構えてどうすんだよ。そういう日の日和見つて言うんだ  
よ。勝たせてもらうんじやない、勝ちにいくんだ。プレイヤーの自  
覚あるんだろ？ 走れ、フイールド支配しろ。ボールとつたらどん  
どん回せ。連携こそがオールジャパンの強みだろ？ それが何だ、  
バントの構えで個人プレー。あつちうろうろ、こつちうろうろ。  
この部族の祭りだよ。おまえら全員内気すぎ。あの、牛若丸の、何  
だ。

男2 内弁慶ですね。

男1 それだよ、それ。おまえら全員弁慶だ。立つてそのまま往生しろ。

男2 ああ、もう、どえらい恥かいた。

男1 そうかなあ。

男2 何だよお前、さつきから。お前的には成功だつたっていうわけ。

男1 いや、そりやね、俺たち的にはうまくいかなかつた感ありますけど、

男2 でも向こうからすればどうかなつてとこも、あるわけじやないですか。聞いてみないとわからないですよ。

男1 聞けるか、ボケ。

男2 連絡してみますか。

男1 何、お前、アドレス交換したの。

男2 はい。

男1 え、いつ？ いついつ？

男2 マスター現れ、

マスター あの、お通しなんですけど。

男1 はい。

マスター いりますか？

男1 いる、いるよ。適当に持つてきて。

マスター かしこまりました。あと、

男1 はい？

マスター （男2に） イカは酢味噌がいいですかね。

男2 まあ、俺は。

男1 好みだる。

マスター そうですね。ありがとうございます。（奥に声かけ） はいお

通し適当でお願ひ。（行く）

男2 いや確かにそう言つたけど。

男1 で、いつ、どこで。

男3 やつてましたね。

男1 ああ、帰りですよ、クローケの前で。

男2 赤外線でピット。

男1 誰、誰、どの子。あ、待つて、当てよう。せえの、で、

男1~4 ロザライン。

男1 ええ、まじ。俺あの子絶対バス。おまえの太目好み、ランク上がつ

てるな。

男2 王様だつてあのガサガサした姫と仲良くやつてたじやないですか。ガサガサ言うな、ガサガサ。いいじやん、かわいいじやん。それに

あの子、仕事できるんだぜ。俺ら幹事だからさ、めっちゃメールのやりとりするじやん。それがさ、すぐえ的確で、要領おさえててさ、もうとにかく仕事早いの。いいね、気持ちいい。久々に惚れた。本当、仕事の鬼ですね。

男 2  
男 1  
頭の良い女が好きなの。いいじやん、めんどくさくなくて、話もで

きるし、楽しいし。  
さすが先輩。

男 3  
男 4  
ナヴァール商事営業部、期待の星。  
いやいやいや。で、おまえらは。

マスター現れ、

マスター あの、  
男 1 あん？

マスター 酢味噌が切れまして。

男 1 頼んでないだろ、イカポンもイカ酢味噌も。

マスター あ、そうか、失礼しました。（奥へ）ごめん、イカキヤン、  
イカキヤン。（行く）

半端な省略。

男 2 負けず嫌いだな。

男 3 僕はあの、

男 4 うん。

男 3 トイ面の。

男 2 ああ、あのゆるふわ系。

男 1 ええ、俺はバスだな。たるい。

男 2 人の好みなんだから。（男4に）お前は？

男 1 あ、わかった、俺の横に座つてた子だろ。軍艦巻きみたいな。

男 2 あ、わかる、しかもネギトロじやなくイカオクラ。な。

男 3 いや、ちょっとわかんないです。

男 4 いいじやないですか、美人だし。

男 1 まあ確かに美人だな。でも俺は姫だな。なんたって目力がいい。

男 2 新人面接じゃないんですよ。

バカ、お前、何でも一緒だよ。こういうのはファーストコンタクトで、どれほど相手のことを見抜けるかが非常に重要なんだ。たかが合コンでしょ。

たかが？ お前たかがって言つた？

マスター現れ、

マスター　はい、お飲みもののご注文は。

男 2　あ、ごめんなさい、考えます。

マスター　あれ、まだ？　ああ、ごめんなさい。（奥に）　はいのんびり

検討中。（行く）

男 2　急ぐよ。

男 1　お前さ、俺と姫がどんだけ苦労してセッティングしたと思つてんの？　お互い仕事で忙しいのによ、店探して、人集めて、連絡して、日程調整して。俺とあの子じやなかつたらこの話つぶれてたぞ。でもそれで姫とやりとりできただんでしょ。楽しくやつたんじやないですか。

男 1　お前、まじ、ふざけんな。おい、携帯貸せ。

男 2　何で。

男 1　いいから貸せ。貸せつて。ロザラインの連絡先、消してやる。

男 1　嫌ですよ。

男 2　貸せ。

マスター、現れる。

マスター　ごめんなさい、お飲みものは。

男 2　あ、すみません、ナマ四つ。

男 1　俺はいい。瓶ビールください。

マスター　グラスは。

男 1　一つ。

マスター　うわあ、社会性ゼロ。

男 1　何？

マスター　はい手間だけどお一人様だけ瓶。（行く）

男 1　男 2　悪い。

男 1　男 2　悪い。

男 1　男 2　悪い。

男 1　男 2　ありがとうございます。幹事おつかれさまだろ、あるいは。おまえがまず、そういう上から目線の偉そうな態度だから、引いちやつたんだろ、あの子たち。

男 1　男 2　引いたのは王様のせいですよ。

俺？　え、何、俺？

王様の、王様ゲームのせいですよ。

男 4　男 3　まあ。

男 2　男 1　まあ。

男1 いや、待て。違う、違うぞ。そうじゃない。俺はおまえらがあまりにひどいから、捨て身で盛り上げようとして。

通りすがりの女 欲しい欲しいと欲しがる心、逃れ逃れていく縁(えにし)。追つて逃れて先回り、いつの間にやら鉢合せ。愛し合わぬは奇跡の冒瀧、叶えて見せよう恋心。

2

トイレ。

女四人が化粧直しをしている。

女1 (姫) ねえ。

女2 (ロザライン) ん?

女1 どうよ? どんな感じ?

女2 うーん。イケるんじゃない。

女3 はい。

女4 いいっす。

女1 いい感じです。

女2 よしよし。

店もいい感じだし。

女1 本当? 私チヨイス。こここのワイン、うちが扱ってるんだよ。

女2 女1 出た、姫のワークトーク。良くないよ、ワーカホリック。

いいの。うるさいな、ロザラインは。今日はちゃんと遊ぶんだもん。

女2 女1 あたし久々だわ、こういうの。

いいでしょ、たまには。スイパラめぐりもいいけどさ。

女2 女1 あ、今度表参道にもできるらしいよ。

女3 まじっすか?

女4 行きましょうよ。

女3 ああ、栗かぼちゃのキッシュ食べたいな。

女4 食べたかい。

女2 [秋] つて本当、太るよね。

女1 [サツマイモ] のグルグルロールケーキも素敵じゃない?

女2 3・4 素敵。

女1 あたしこないだ体重計乗つたらさ……ねえ姫、(チーク) 塗り過ぎ

女2 3・4 太る。

じゃない？

そう？

うん。ほほバカボン。

だつて顔色悪いんだもん。

何、疲れ？

残業、残業、また残業。今週、ずっと午前様よ。

げ。／女4 まさすか。

今日久しぶりに定時に上がった。

いい加減にしなよ。あんた死ぬよ。

出来る女は大変ですね。

違う。抱えてる案件が多いだけ。

あんたらもそのうち、いろんな話に巻き込まれるよ。うちの部署、なんだかんだで人使い荒いから。らしいっすね。

組合ももはや、御用組合。

フランス運送総務課は人権無し。

女3・4 ブラックウ。

だから狙おう寿退社。

女1～4 気合だ、気合だ、気合だ。

通りすがりの女、現れる。

通りすがりの女 もう、奥山さんたらまたやきもち。いいじゃない、小出さんと楽しくお話ししたって。ああ妬かれると信用されてないんだなつて思っちゃう。もうちょっと辛抱強くなつてもらわないと。でもやっぱり小出さん素敵よね。あのチーフ使いとかカフスとか、センス良くつてギュンギュンきちやう。なのに奥山さんたら、冬場なんか長靴にチョッキでほとんどマタギ。ああ、マタギつて、北国熊撃ちね。でもマタギに惚れる女だつているの。

通りすがりの女、行く。

ようし。

頑張るつす。

ねえ、何系だつて、今日。

学。 営業系。四大出の、割とエリート。早稲田、慶應、ＩＣＵ、一人青

おお。

なるほど。

いいでしょ、ツブ揃つてるでしょ。ツブツブでしょ。

でもエリートはマザコン多いからな。

そうだけど。そこはまあ、育てるくらいの心意気で？  
育て系ね。手、かからないでくれるとありがたいんだけど。  
ね、ぶつちやけ誰狙い？ かぶつてもいいから。

そうですね。

私、右斜め前。

即断つすね。

右斜め前。え、誰の？

あたしの。あの小(二)イケメン。

女3・4 ああ。

小(二)つて何。

平均にちょこつと上乗せ的な？五段階だと三・三的な？神様おまけ

してくれちゃつたね的な？

わかる。

女1 言うね。

女2 だつて別に、顔じやないし。

女3 え、じやあ何ですか？

女2 呼吸、みたいな？

女1・3・4 わかる。

女1 言うね。

女2 この短時間で呼吸とは。

女3 いや、実はさつきね。

女2 うん。／女3・4 はい。

女1 テーブルの下で足がぶつかって。あ、つて思つたら、そのままピタ

ツと。

ええ。／女3・4 ええ。

女2 そのままずっと、足寄せ合いながら。

えええ。／女3・4 ひゅう。

女1 あんたそれ、大丈夫？ お持ち帰りオファージやないの？

女2 違うんじゃないかな。うん、たぶん。目でね、わかるの。本気かも。

女1・3・4 やだあ。

女2 この、肉食系、肉食系。

女1 やだ、草だつて魚だつて食べるから。

女2 雜食系、雜食系。

女3 姫先輩は誰なんですか？

女2 右斜め前でしょ。  
女1 はあ？あんたと一緒、

姫の、右斜め前。

あ、王様つすね。

ああ、ああ、ああ。

姫わかりやすいから。

やだ、バレてる？ 漏れてる？ ダダ漏れしてる？ うそ、あれま、  
ちよつとやんだ、こつ恥ずかしい。

女2 出た、茨城。

女3 先輩、それNG。

女4 いいんじゃない、幹事同士で。あ、実はもうデキてたり？

女1 まだもん。

女2 女3 女4 4ひゅう。

女2 何、結構いい感じじやん。

女1 ほら、幹事だから。段取り的な？業務的な？やりとり的な？調整的  
な？そういう、何ていうの、ほら、もう、ねえ、あはは。

女2 ザ・言いよどんでる。

女2 3・4かわいい。

女2 女3 ほら見て、ここらへんかわいい、ここらへん。

女3 ああ、ほんとだ、ほんとだ。

女4 やばい姫、萌え、超萌え。

女1 うるつさい。いいの、あたしのことは。ね、ね、あんたたちは。

女3 あたしは、実は、姫先輩の隣の。

女1 ああ、あのデスクの引き出しに使わないボールペンいっぱいため込  
んでそうな。

女2 4わかる。／女3ええ。

女1 女2 いつの間にかみんなのボールペンがそこに集結してんのよね。

女2 あんたは？

女4 自分は、向かい側の。

女1 ああ、あのうつかり部長の愛人寝取つて左遷されちゃいそうな。

女2 3わかる。／女4ええ。

男2 男の嫉妬って怖いよね、特に中年越えるとほんとひどい。

女1 でもまあ、とりあえずそこそこまではいくかな。

女2 3・4ああ、はいはいはい。

通りすがりの女、戻つてくる。  
手洗い場に割つて入る。

通りすがりの女 でもね、昨日の巨人戦の話なんかされてもね。四番・坂本、打ちましたねつて。誰よ、坂本つて。坂本つて言つたら九じやない? 四番つて言つたら原じやない? そしたらね、その原がいま監督なんですよって、マタギも小出さんも大笑い。いいじやない、ねえ、私の中の永遠の四番は原なんだから。すぐそうやってからかうの。ほんと、いくつになつても男の人つて子供よね。でもだから仕方ないなつて思つちやうんだけど。あたしもね、(ハンカチを口にくわえ、何かを喋りながら手を洗う。)ね。みんな素敵。

通りすがりの女、行く。

女1 さてと。  
女2 行きますか。  
女3・4 はい。

3

居酒屋の男たち。

男1 じゃああれだ。俺も言う。言わせていただく。はいどうぞ。

おまえのあの山手線ゲームなんだ。古今東西ローマ英雄列伝つて。そんなのリズムにもならねえし、第一ぐるぐる回せるかよ。

男2 そうですか? 結構出てたじやないですか、シーザーとか、ハンニ

バルの山越えとか。

男3 割と盛り上りましたね。

先輩もファインプレーで。

男2 そうそう、あの時の王様、マジ光つてましたよ。ハンニバルの天城

越えつて。な。

男3・4 はい。

男4 確かに、ヘラクレスはカブトムシですよね。

男4 大カトーと小カトーいたら、そりや中カトーだつていしてしかるべき。

男2 ユダつつたら南斗だし。

男3 ナントつて何ですか?

男4 え、

おまえ知らないの? アタタタタだよ、北斗の拳。

男 3 ああ、パチンコの。  
男 2 アニメだよ。え、何、お前本気で知らないの？ジャンプだよ、名作  
男 3 すいません。  
男 2 勉強が足りん。帰り、ブックオフに寄つて大人買いしろ。  
男 3 はい。  
男 2 中（ちゅう）カトーはいないのかよ。  
男 3 え？  
男 1 中カトーはいないのかって聞いてんだよ。  
男 2 ああ、大力トー小カトー。  
男 4 いや、だから、なあ。  
男 3 小は大の曾孫だから、中は、何ででしょうね。  
男 4 親カトー、子カトーかな。  
男 1 何で歴史にしたの？  
男 2 え？  
男 1 何で歴史にしたのって聞いてるの。ビローンさん。  
男 2 いや、まあ。  
男 1 俺は歴史が苦手なの。何でもっと一般的なのにしないわけ？ 国と  
かさ、ミュージシャンとかさ。  
男 2 俺、音楽知らないんで。  
男 1 出た。それだよ。そういうとこ。よく知らないからって、自分の得意  
意分野に寄せる、ふつう？  
男 2 でも何でもいいからお題出せつて俺に言つたの、王様ですよ。  
男 1 だつたらなおさら、俺の出したパスを有効に使えよ。じやあ何が好き、王様？とかさ。昨日何を見た？とかさ。聞けるじやん、振れるじやん。そうすれば、もっとみんなで共有できる、一般的な選択肢が出るかもじやん。  
男 2 すみません。

マスター、現れる。

マスター おかわり、お持ちしますか。  
男 2 あ、じゃあ俺ナマ。  
男 3 僕も。  
男 4 自分も。  
男 2 王様は？  
マスター マスター 瓶ビールで。  
男 1 俺が決めるんだよ。いいよ、ナマで。何でもいいよ。

マスター かしこまりました。はい素直にナマ四つ。（行く）

男 2 ここマスター一人だよね？

男 1 いいか、お前ら。合コンってのはな、チームワークなんだよ。俺が俺がじや絶対に駄目だ。と同時に、受け身の姿勢でも駄目だ。まず主張的にファイードに立つ。それからバス回しだ。お互いの魅力が伝わるよう、かつあからさまにはならないように、上げ下げのバランスを取りながら仲間について語る。上げるばかりじゃダメだし、下げるばかりでも当然だめだ。

男 2 褒めたりけなしたり。

男 1 分かりやすく言うとそそうだな。

男 2 褒める？

男 1 何でもいいんだよ。ある特色を、褒める方で使つてもいいし、けなす方で使つてもいい。歴史オタクって言うと面倒くさそうだけど、歴史マニアっていうと奥深そうだろ。

男 2 どっちも嫌だな。

男 1 例えばの話だよ。そこ引つかかるな。要は、全体のバランスを見つてこと。個人プレーに走るんじゃなくてさ。

男 2 はい。

男 3 勉強になります。

男 4 でも王様、それ。

男 1 何？

男 2 合コンじゃなくて、接待の極意なんじゃないですか。上げたり下げる

男 3 たり、バランス見たり。

男 4 そんなことないよ。

男 2 でも俺たちそんなふうに思つてないですもん。なあ。

男 3 ああ、まあ。

男 4 女の子と楽しく過ごせれば、それで。

男 2 そう、まずは楽しむくちや。

男 1 これだ。駄目だ、おまえらとは話が合わん。哲学がない。

男 2 合コンの？

男 1 人付き合いのだよ。もういい、マスター、お愛想。

男 2 謝りやいいつてもんじやない。

男 3 すいません、先輩、本当、すいません。

男 4 いやもう、本当、幹事おつかれさまです。

男 1 今？今言う？遅いよね、もう。その話題過ぎたよね、さつき。もう、

男 2 何？二十分くらい前？

男 3 いやもう、自分は何も考えず楽しんでただけで。本当、すいません。

男 4 セッティング、ありがとうございます。  
男 2 ほら、後輩に気、遣わせてますよ。  
男 1 おまえはもつと気、遣えよ。

マスター、現れ、

マスター　お会計、ゾロ目で三千三百三十三円。

男 2 ああ、いいから、まだいいから。

マスター　あれ、でも、

男 2 いい、いいから、

マスター　ゾロ目ですよ？

男 2 そこじゃない。

男 4 すみません、あと追加で、お新香一つ。

マスター　かしこまりました。お新香一つ。はいよ。（行く）

男 2 いやだから一人でしょ？

男 1 つたくよ。

男 3 まあまあまあ。

王様、姫ちゃんにメール打つてみたらどうですか？

男 2 俺が？

男 1 他に誰が。

男 1 いや、いい。もうきっと俺は駄目だ。せっかく幹事で上げた株も、あの数時間で底値を打った。今や彼女の内で俺はブラック企業だ。解約リストに上がってる。いや、違うな、多分もうあらゆるファイルから消された上に、シュレッダーで木端微塵だ。

ネガティブだな。

先輩、こんな人だつたんですね。

男 1 繊細なの。感じやすいの。大事にしてよ、もう少しさ。こう、ガラ

男 2 ス細工をもてあそぶように。

男 1 もてあそんじゃダメでしょ。

男 2 ああ、姫ちゃん。もう会えないのかな。かわいかつたな。いいな。

男 1 会いたいな。一人つきりで、雰囲気のいいバーとかでさ、仕事の話とかさ、好きな映画の話とかさ。マスター、この子に合うカクテルつくつてよ、素敵なやつね、とか言っちゃってさ。

男 2 妄想ですね。

男 1 おまえだつてあのゆるふわとどつか行つたりしたいだろ。クレープ食べながらサンリオピューロランドとか行つてみたいだろ。

男 2 高校生か。

マスター、現れる。

マスター ごめんなさい、お新香終わっちゃって。

男4 ええ、もう。何ならあるの。

マスター たこ焼き、とかですかね。

男2 全然違うし。

男4 こう、さっぱりしたいんだけど。

マスター さっぱり。じゃあ、茄子の一本漬けとか。

男2 あんじやん、お新香。

マスター いや、それとこれとは別問題で。

男2 別問題つて。

男4 いいよ、何でも。とにかくそれ。

マスター かしこまりました。はいさっぱりしたくて茄子一本。（行く）

男2 動機はいいだろ。

男1 ああ、せめてお友達になりたかったな。

男2 王様、そんなに言うなら、やつぱメール入れましよう。

男1 えええ。

男2 ですね。僕たちも入れますから。

男1 何？ おまえらも赤外線ピッピしたの？

男3 はい。

男4 ビローン先輩がやってるの見て、じやあ僕もつて。

男1 じやああの、軍艦巻きに？

男4 超高級イカオクラですけど。

男1 何だよピッピ、いいなピッピ。

男2 王様は元から姫の知つてたんだからいいじやないです。

男1 ええだつて、ピッピしたいじやん、コミュニケーションとりたいじ

男2 ゃん。

男1 だからほら、これからメール。

男2 やだ。だつてもう額面割れだし。

男1 株ネタやめましようよ。仕事思い出す。

男2 ああそうだ。どうせ俺は仕事の鬼だ。私生活なんて何もない。これ

までも、これからも。企業戦士として生き、幸せも知らず、愛も知

らず、一人ひつそり過労死で死んでいくんだ。

王様。

男1 いやだ、そんな人生、いやだ。

男2 先輩。

男3 男4 大丈夫ですって。

マスター、現れる。

マスター はい、超特急で茄子お持ち。さっぱりしてね。（奥へ）え、何、

どうしたの？（行く）

だから一人じやんて。

俺さ、久しぶりに恋、できるかなと思つたんだ。だからさ。

俺も。

僕も。

自分もです。

ちよつと、張り切りすぎちゃつた。ごめんね。

男 2

・  
3  
・  
4 王様。

4

トイレで女たちが化粧直しをしている。

信じらんない。

ありえない。

マジ腹立つ。

ないつすね。

何なの、あの目隠し王様ゲームつて。

最低。

キモい、手にチュウされた。

あたしも。／女3 あたしも。

あたしもビローンに、愛してる、結婚しようつて言われた。

ええ、ちよつと、何それ？

だからあんたと間違えたんでしょ。

何すかそれ。

へこすぎる。

あたしも王様に口説かれた。

え、ちよつと、

だからこつちもあんたと間違えたんでしょ。

あ、そつか。

ああ、もう。

バカ。

まじ、きしよい。

女 1 女 2 女 1

ねえ。  
何?

王様、何て言つてた?

通りすがりの女、現れる。

通りすがりの女 もう、広いお店ね。探し物だけで大冒険。どこ行つち  
やつたのかしら。ない、ない、ないと。ふちがレースなのよ、カメ  
の刺繡の。あら、カメ? カエル? アユ? サンマ? いずれに  
せよ泳いでるのは確かね。奥山さんにいただいたんだけど。あ、奥  
山さんはマタギの方ね。ああ、でもきっと、モノの切れ目は縁の切  
れ目。忘れた方がいいってことね。奥山さんとは一夜の恋。奥山さ  
んとは、あら、一夜? 一夜、二夜……数じやない。でも数も一つ  
の目安よね。でもだつて、小出さん素敵なんだもん。ああ苦しい。  
奥山さん、小出さん、奥山さん、小出さん。近くのマタギと、遠い  
虹。

通りすがりの女、行く。

女 1 で?

女 2 あ? ああ、気になる?  
女 1 まあ、多少は?

女 2 まあ、多少は?  
女 1 あつそ。  
女 2 大好きだ、好きで好きでたまらない、大大大好き、大好き姫ちゃん  
女 1 て。

女 2 あーあ。

女 3 あれ。  
女 4 バカつすね。

女 1 何。

女 2 見て見て。ほら、ちょっとここんとこ、笑つてる。

女 3 あ、ほんとだ。  
女 4 ザ・ポーカーフエイスを試みて失敗じやないすか。

女 1 やだ、かわいい、姫先輩。

女 2 うるさい、うるさい、  
女 3 かわいい、かわいい。／女 4 やばい、やばい。／女 4 萌えっす、  
女 1 マジ萌えっす。

女 2 やめ、やめやめ、やめれつて。そういうあんた(女2)だつてご機  
嫌じやない。

女たち 女2 女1 女2 何?  
女2 女1 女2 もう。  
女1・3・4 え?  
女2 はい……はい。ええ、います。はい、三人とも。はい……お通夜の  
準備に戻れって。はい。(切る)

女2の携帯に電話。

女1 ちよつと待つて、部長から。(出で) もしもし。……社長が亡くな  
つた?  
女2 気合があれば、何でもできる。1, 2,  
女たち ダーツ。  
女4 気合でシカトつす、先輩。  
女1 (切る) 脱・ワーカホリック宣言。  
女2・3・4 ブラボー、ブラボー。(拍手)

女1 の携帯に着信。

女2 え、いいの、あたしは。  
女3 あれ、先輩。  
女1 ほら、見て見て、ここらへん、ここらへん。  
女3 あ、幸せオーラにじみ出し。  
女2 肉食、肉食。／ 女3 はらぺこ、はらぺこ。／ 女4 食い道楽、  
女1 食い道楽。  
女2 バカバカ、うるさい、うるさい、うるさい。  
女1 あんたたちもでしょ。  
女3・4 ええ(見合い、照れ) はい。  
女1 やだ、もう、このこのこの。／ 女2 このはらぺこ、はらぺこあ  
おむし。／ 女3 やめてくださいよ、やめてくださいってば。／ 女  
4 いいんです、たまにはいいんです。  
女1 何だ、みんなよろしくやってんじやない。  
女2・3・4 えへへへへ。

どうする？

何でみんないるつて言つちやつたのよ。

たて、今日四人で一緒に出たしやなし

壳つてなハ、客観的事実

先輩、

電話に出たのあんたじやない。あんた一人で戻りなさいよ。

女2 たへてみんな一緒に来て言わせやつたもん

とかで見るでしょ。

女2 あんたたちそれでほんとに後から来るの？

女1 そんなのわかるわけないじやんさ。

先輩 / 女3 女4

アーティストとしての才能を発揮するためには、常に新しい視点や技術を追求する必要があります。

女三・四  
おお おお おお

通りすがりの女、現れる。

通りすがりの女 どうする、私、一二兎を追う？ ううん、それはウサギに失礼だわ。夢を追う？ 安らぎを守る？ 安らぎ？ 嫌だ、私つたら、らしくない。夢を追う戦いこそが我が人生。答えはもう見えてるじゃない。ああ、でもわかる。きっと怖かったのね。ほら、追うつてとっても疲れるじゃない？ だから安らぎをどこか手近なところに置いておきたかったのね。でもそれって安らぎに失礼だわ。夢を追うために安らがせろなんて、マタギを何だと思つてゐるの？

通りすがりの女、行く。

わかつた。行こう。

レノンの死?

いの仕事に心がかかるの女

二兎を追う者、五兎を得て、アブハチとるもの、

よつ。

よ  
う

女 1 泣き笑い。  
女 2・3・4 姫。  
女 1 ああ。しゃあない。行こつか。  
女 2 うん。／女 3・4 はい。

## 5

男たちの居酒屋。

姫ちゃん、姫ちゃん、姫ちゃん。  
泣かないの、ほらちゃんと座つて。

男 1 姫ちゃん、姫ちゃん、姫ちゃん。  
泣かないの、ほらちゃんと座つて。  
男 2 先輩、職場とのギヤップ半端ないです。

男 3 先輩、職場とのギヤップ半端ないです。

男 4 完全に酒に呑まれてる。  
男 1 ねえ、今タチ悪いって思ったでしょ。思つたでしょ。ほら、顔に書いてある。ここここここここ。すげえ太い、極太で。あ、あれだ、

ニューヨークの、ダウンタウンの壁の落書きだ。セクシイとか、ゴツドとか。ハイヨウ、俺たち下町生まれ。

男 2 ウオールペイントね。

男 3 タクシー呼んでどうするの。俺をお持ち帰りするの。助けて、誰か、俺この人たちにお持ち、お持ち帰られる。お持ち、帰られる。

男 4 先輩、とりあえず立ちましよう。

マスター、現れる。

マスター すみません、お飲みものラストオーダーなんですけど。

男 2 状況見える？  
マスター 楽しそう。

男 3 いいから、ごめん、お会計。  
マスター はい、毎度。

マスター、行く。

男 1 (歌う) 開きかけてた心の扉 隅間に鎖鍵  
鍵を預けたあの子はいざこ  
笑う三日月 閑夜にや暗い

男 2 男 1 男 3 男 2

男 2 男 1 男 3 男 2  
無い。

電波、悪いのかも。  
でもほら、アンテナバリバリつですよ。

一人暮らしで孤独死か。六畳一間で息絶えて、一ヶ月床に転がるんだ。ある日大家がやつてきて、トントン、王様、家賃滞納してますよ。あら、おかしいわね、嫌な臭い。來た。モシモシヒメヨヒメチャンヨ。姫ちゃんからだ。

男四人、覗きこむ。

男 2 男 1 男 4 男 3

男 2 男 1 男 4 男 3  
あ、てことは、  
先輩、先輩、

んあ？

男 1 男 4 男 2 男 3

男 1 男 4 男 2 男 3  
携帯見てください、携帯。  
たぶんメール来てますから。

男 1 男 4 男 2 男 3

何だ携帯って。俺は携帯、不携帯主義だ。鳴つても出ない。鳴らしても出させない。相手が出る前に切っちゃうんだもんねえだ。はいもしもブチ。すごくね？ これすぐえテクニックいるんだぜ。ちゃんとなあ、何でもいいですか。  
さつき確かポッケに。  
あつ、スリ集団です、スリ集団ですよ。泥棒、泥棒。  
あつた。

男 4 男 3 男 2 男 1

男 4 男 3 男 2 男 1  
何？ てことは。（携帯を見る）ロザラインちゃんだ。

男 2 男 3 男 4 男 3  
勇気出してピッピした甲斐、あつたな。

男 2 男 3 男 4 男 3  
4 おおおお。

男 2 男 3 男 4 男 3  
はい。

男 2 男 3 男 4 男 3  
ん？

メールだ。（一人、携帯を見る）

おい、いいから先、

待つてください。先輩、これ。

こつちもです。

男 2 男 3 男 4 男 3  
男 3 男 2 男 4 男 2  
男 2 男 3 男 4 男 2  
男 3 男 1 男 4 男 1  
男 4 男 2 男 3 男 2  
男 3 男 4 男 2 男 1  
男 2 男 1 男 3 男 2  
まいつたな。

姫ちゃん。姫ちゃん。どこへ行つたの、姫ちゃん。

頼みますよ、先輩。

僕、払つてきます。

メール着信。

男 2 男 1 男 4 男 3

まいつたな。  
姫ちゃん。姫ちゃん。どこへ行つたの、姫ちゃん。  
頼みますよ、先輩。

僕、払つてきます。

男1 貸せ。（取る）

男四人、覗きこむ。

男3 (読み) 今度は二人で会いましょう。素敵なバーとか行きたいな。  
目隠ししたら、そのままスマキで東京湾に沈めます。ご連絡お待ち  
しております。

男3・4 先輩。

男2 らしいな。

男1 やつた。

男2 王様。

男1 ビローン。

男四人 万歳、万歳、万歳。

マスター、現れる。

マスター あの、お会計を。

男1 何言つてんだ馬鹿野郎、祝杯だ。酒じやんじやん持つてこい。

通りすがりの女、現れる。

通りすがりの女 ごめんください、待ち合わせで。

マスター すいません、もうラストオーダー、

男1 知つたことか、ラストを変える。じゃなかつたら時間を変える。世  
界中の時計を回せ。

男2 出た、理不尽。

通りすがりの女 え、何、お祭り？

男1 地球よ回れ。歴史よ動け。ヘラクレスが何だ、ハンニバルが何だ。  
過去を見すぎて歩みを止めるな、未来は常に前にある。未来のため  
に過去を見る。新たな歴史の幕開けだ。歴史は俺だ。俺は、王様だ。

男2 よつ、王様。

一同 日本一。



## 『十二夜』

※ 框で囲まれている部分は、実際の上演環境に合わせて変更すること。

1

まこと（トービー）と綾田（フェステ）、現れる。

やあ。

さいとうまことです。

綾田将一です。二人合わせて、

あやだまことです。

はい、今回は『十二夜』。

『十二夜』。

まこつちゃん、ご存知ですか、十二夜。

十五夜みたいなもんですか。

満月でね、おだんご食べて鬼がピヨン、って違うから。十二

夜ですよ、十二夜。

三つ足りない。

足りないどころか全然違う。国が違う、文化が違う。  
あら。

トービー

フェステ

この十二番目の夜を記念して、お祭りが行われるようになつたのです。

それが十二夜。

クリスマスから飲めや歌えのどんちゃん騒ぎが始まつて、年

をこえ、クライマックスが十二夜です。

トービー  
フェステ

長い宴会だ。  
で、そのときに上演されたのが、まさにこの『十二夜』だと  
言われています。

トービー

フェステ

トービー

十二夜は、年明けて約一週間。日本のお正月の、松の内と同じくらいの日取りです。

トービー

フェステ

トービー

マルヴォーリオ

「きげんよう。

トービー

マルヴォーリオ

「おはようございます。

トービー・フェステ

（無視する）

フェステ

早いですね。

トービー

どうしたんですか、今日は。

マルヴォーリオ

どうしたも何も。今日は稽古ですよ。

トービー

稽古？

トービー  
フェステ

確かに感覚的に、年明けの休みはそのあたりまでつて感じだね。

それを越えてぼんやりしてると、いつまでお屠蘇気分でいるつもりだつて叱られちゃつたり。

おとそきぶんつて何ですか？

あれ、まこつちゃん。

三十越えてますよね。何にもござ存知な

すみません。

お屠蘇つていうのは、屠殺の「と」に蘇生の「そ」。悪い鬼を殺して魂をよみがえらせる、お正月にいただく縁起物のお酒です。

トービー  
フェステ  
トービー  
二人

じやあ、何かにとりつかれたら、お屠蘇をたくさん飲めばいいんですね。

病の源である鬼を体から追い出す。健康を大切にする昔からの習慣です。あ、でもひとつ、何をやつてもなおらない病がありました。

何で？ それはいつたい？

かかれば最後、恋の病。

はつ。

ありがとうございます。

〔つねさん〕（マルヴォーリオ）、現れる。

フェステ

そうか、ヤバい、今日からだ。

トービー

台本忘れた。

フェステ

俺も家だ。ちゃんと読んでたのに。

マルヴォーリオ

だらしない。

フェステ

すみません。

トービー

〔**つね**〕先輩、大変恐れ入りますが、台本お借りできますでしょ  
うか。

フェステ

あ、俺も。

トービー

コピーさせてください。

フェステ

コピーとつてきます。

マルヴォーリオ

断わる。自分のおしりは自分でふく。それが大人への

第一步。

トービー・フェステ

〔**つね**さん〕

マルヴォーリオ

マルヴォーリオ。

トービー

え？

マルヴォーリオ

(無視する)

フェステ

だめだ、**まここつちゃん**。稽古初日の**つねさん**はもう**つねさん**じやない。**つねさん**であると同時に、**つねさん**演じる役でも

トービー

きよじひひまく？

フェステ

ああ、もう。江戸時代、近松門左衛門の芸術論ですよ。虚構の虚、現実の実、皮に膜。自分と役との境界線の、薄皮一枚の上に芸がある。

トービー

へえ。

マルヴォーリオ

おやめになつたらいかがですか？

トービー

え？

マルヴォーリオ

劇団をです。芝居をです。演劇なんておやめなさい。

実家に帰つて稼業をつぐか、知り合いのコネで、家族経営の中企業に雇つて頂きなさい。あ、でも、稽古初日に台本を忘れるようななずさんな姿勢で生きる方は、どこの会社にいつても使えなくて持て余されるでしょうね。残念。残念な人生。意地悪だ。

マルヴォーリオだからです。

トービー

違う。今のはマルヴォーリオの皮をかぶつた**つねさん**にすぎない。役を隠れ蓑にしてダメ出しをするなんて、褒められることじやないですよ。あんたなんか**つねさん**でもマルヴォーリオでもない。**つね**ヴォーリオだ。

マルヴォーリオ

マルヴォーリオだ。さあ、稽古を始めよう。君は使え

ない飲んだくれの貴族トービー、君は無能な道化のフェステ、私は輝く執事マルヴォーリオ。そして美しきオリヴィアは。

マライア（声）お嬢さま。

オリヴィア（座長）、マライアを連れて現れる。

オリヴィア いけない、いけないつたら。どうしたつていうの、突然。

トービー・フェステ 座長。

マルヴォーリオ お嬢さま。

オリヴィア 心臓が痛い。ここは山？ 空気が薄い。息が苦しくてならな  
い。

トービー（マライアに）どうしたの？

マライア ずっと言い寄つて来てたマッチョな公爵、いたじやない？

その使いに惚れちやつたのよ。

マルヴォーリオ え。

オリヴィア いけません。だつてあの人は召使。身分違いの恋。早まつて  
はいけない、落ち着いて。ああ、だめ。あの人の主人と入れ  
替わってくれればいいのに。ああ、セザーリオ。

トービー どんな人？

マライア 線が細くて、髪の毛くるくる、若くてきれいな男の子。

オリヴィア 我が愛しのセザーリオ。はしたなさなど知るものか。私は恋  
に落ちました。心から願う。この腕に抱かせて。

フェステ・トービー 座長、

マライア・トービー・フェステ フォーリン・ラブ。

フェステ、ひとり。

2

フェステ

いいな、恋。してないな、恋。ひとりつてのは気楽だけど、  
誰かを思いながら暮らすつていうのも、切なくていいよね。

オリヴィア、現れる。

オリヴィア ああ、愛してる、愛してる。遠い。あなたが遠いの。これは  
霧？いえ涙。世界が水でうるおつてるわ。待つて、ノアの方

舟。ああ、でもつがいしか乗せてくれないの。私に乗る資格はない。溺れる。お願ひ、誰か救つて。

オリヴィア、行く。

フェステ  
秋はだめだな。特に夜。ときどき無性に寂しくなる。会いたいな、でも誰に？ごはんはおいしくなるけどさ、憂いと体重が増しちゃうのは勘弁。

トービー（声） フエステ。

トービーとマライア来る。

フェステ  
トービー  
はい。

フェステ  
マライア  
居た居た。向こうでお嬢さまが呼んでたぞ。セザーリオを呼び戻せつて。  
また？

フェステ  
マライア  
今日、これで何回目？

フェステ  
トービー・マライア 行ってきます。（行く）

トービー  
マライア いってらっしゃい。  
恋に落ちたはいいけれど、こう振り回されるんじや大変だ。  
向こうもよく付き合うわ。

マライア。

トービー  
マライア だめ。仕事中。

トービー  
マライア 俺は仕事中じやないもん。

トービー  
マライア くさ。酒くさ。

トービー  
マライア 酒を飲むのが僕のお仕事。

トービー  
マライア マルヴォーリオに追い出されるよ。

トービー  
マライア 知らないよ、あんなやつ。執事のくせに、偉そうに。

トービー  
マライア お嬢さまが信頼してるの。

トービー  
マライア 信頼すべきはこの私、サー・トービー・ベルチだろう。

トービー  
マライア 朝から奈良漬けになつてるような人に何を頼れつつうの。

トービー  
マライア だつてほら、血縁じやん？ おじさんじやん？  
せめて昼間はひかえなさいよ。

マライア (照れて) やだ。

トービー  
マライア

フェステ 戻る。

フェステ  
トービー

マライア  
フェステ

マライア  
トービー

マライア  
フェステ

マライア  
トービー

女主人があの状態。

オリヴィア、行く。

オリヴィア、来る。

好き、好き、ああ、好き。世界の破滅？知らないわ。いつの間に破滅していたの？だつて私の炎は燃えたまま。あなたへの愛を薪（まき）にして。あなたがこの世に居る限り、私の囲炉裏はお湯がしゅんしゅん沸いたまま。ただいま、おまえ。おかげりなさい、あなた。

フェステ

このままだとマルヴォーリオに乗っ取られますよ。あなたも僕も、追い出されるのは時間の問題。

トービー えー、やだやだ。それは困る。どうしたらいい?

ライア。 ねえ、マ

マライア えー、どうしたらって。

フェステ お嬢さまの、やつへの信頼度を下げればいい。

トービー それだ。でもどうやって?

マライア お嬢さまの前で、あいつが奇行に及ぶとか。

トービー それだ。でもどうしたら?

フェステ お嬢さまへの愛を打ち明けさせる。

トービー それだ。でもやるかなあいつ?

フェステ 少しは自分で考えなさいよ。

マライア あ。

トービー・フェステ トービー・フェステ 何?

マライア あたし、お嬢さまとそつくりな字書ける。だから、お嬢さまからあいつあてのラブレターを、偽造するってのはどう?

トービー ラブレター。 マルヴォーリオへの愛の言葉を、あることないことを書き散らす。それを見たマルヴォーリオは相思相愛と勘違いして。

マライア 「愛してる、オリヴィア」

トービー・マライア (拍手)

トービー いいじやない。でもどうやって奴の手に届ける?

マライア あいつ、いつも昼食後に庭を散歩するのよ。そのときに目立つところに落としておけば。

フェステ 榆の木の下がいい。あいつ、いつもそこで一休みするんだ。

トービー さすがおまえら。愛する女と愛しい友よ。

マライア あたしの部屋へ。

フェステ ついていきます。

三人、行く。

3

トービー、マライア、フェステ通過。  
三人、戻つて来て隠れる。  
マルヴォーリオ、現れる。

フェステ、姿を現す。

フェステ ごきげんよう。お散歩中?  
マルヴォーリオ まだ居たのか。

マルヴォーリオ、通り過ぎる。

三人、マルヴォーリオの行つた方向を見る。

三人、再び隠れる。

オリヴィア、現れる。

オリヴィア 燃ける。燃けるわ。愛の炎で焼けてしまう。火事よ、大火事。  
私が火事。誰か水を、この胸に。

オリヴィア行く。

三人が姿を現そうとしたところに、オリヴィアまた戻る。

マライア、相手をする。

オリヴィア 人間は何でできている? 水、細胞、DNA。違う。愛でで

きている。水だの細胞だのは部分よ。全体をまとめあげるのは愛。愛に動かされている今の私は完璧な生命体。そうでしょう?

マライア そうですね。

オリヴィア、行く。

マライア、隠れる。

マルヴォーリオ、再び現れる。足を止め、戻つて行く。

三人、再びマルヴォーリオの行つた方向を見る。

小さくガツツポーズ。

三人、再び隠れる。

マルヴォーリオ、手紙を手にして戻る。

フェステ、姿を現わす。

フェステ ごきげんよう。

マルヴォーリオ (手紙を隠し) 何?

フェステ 見て。身に染みわたるほどの青空。こんな日に愛の告白なんて受けたら、幸せだろうな。ラブレターなんかで。あつごめんなさい。お散歩中にお邪魔しちやつた。失礼します。

フェステ、行く。

トービーとマライアも、姿を隠したまま行く。  
マルヴォーリオ、隠し持っていた手紙を出す。

マルヴォーリオ これは明らかにお嬢さまの字。

「愛しのMへ」

誰だM。お嬢さまが追いかけてる若造はセザーリオ、Mはない。となるとこのマルヴォー……いやいやいや、ないこともないってだけで、世の中にMはごまんとする。可能性、あくまで可能性。

(あたりをうかがい) 落ちてたつてことは、誰かが拾つて中を見る可能性もあるわけで。

(手紙を開く)

「あなたが好き 誰よりも好き

空を見ても あなた

星を見ても あなた

夢を見ても あなた

ああ ああ 愛しいあなた

つらいのは 身分違いの恋

せめてかたく抱きしめて 愛してるつて言つて

愛をこめて あなたのO（オー）より」

お嬢さま、お嬢さま、お嬢さま。お嬢さま。

マルヴォーリオ、行く。

4

トービー、フェステ、マライア来る。  
マルヴォーリオの行つた方向を見やる。

三人  
トービー  
フェステ  
マライア  
トービー  
うえい、うえい、うえい。  
こんなにうまくいくとはな。  
「まんまと」つていう言葉通りの展開ですね。  
人間のつくりがシンプルなのよ。  
これからどうする？

マライア 見張るのよ。お嬢さまとのファーストコンタクトを逃さない  
トービー ように。  
トービー そうだな。

マルヴォーリオ、来ている。

マルヴォーリオ 君たち。  
三人 （驚く）  
トービー びっくりした。  
マライア どうしました?  
マルヴォーリオ お嬢さまはどちらに?  
マライア さあ。  
フェステ さつき、庭で見ましたよ。  
マルヴォーリオ 庭か。ありがとうございます。（行く）  
フェステ どういたしまして。行動早いな。  
マライア ネジがフルにまかれた感じ。  
トービー お嬢さまはちあわせしたとして、その後どうする?  
マライア どうしよう。  
フェステ お嬢さまの信頼がそこなわれるよう、うまくもつていかな  
いと。

マルヴォーリオ、来ている。

マルヴォーリオ 君たち。  
三人 （驚く）  
マルヴォーリオ 見当たらなかつた。すまないが、もし見かけたら、呼  
んでくれないか。  
マライア かしこまりました。  
マルヴォーリオ ありがとう。お伝えしたいことがあつて。  
マルヴォーリオ、行く。

フェステ 時間の問題だ。

トービー 要は、俺たちが仕組んだつてバレなきやいいんだよな?  
マライア・フェステ そうそうそう。  
トービー じやあ簡単だ。ばっくれればいいんだよ。  
マライア でもお嬢さまには、私が書いたつてバレちゃう。侍女の中で  
私だけもん、お嬢さまの字を真似できるの。

トービー

そうか。

フェステ

じやあこういうのは？ お嬢さまも味方につける。

トービー

・マライア どうやつて？

フェステ

マライアが、恋文の練習をしていたことにする。お嬢さまのかわりに、使いの若者に手紙を書くために。お嬢さまの叶わぬ恋を見るに見かねた行動。

トービー・マライア それだ。

マライア お嬢さまのためを思つて、一生懸命書きました。

トービー

マライア。

フェステ

忠義な振る舞い。  
オリヴィア （声） マライア、マライア。

マライア

はい、ここに。

オリヴィア、来る。

オリヴィア

神父様を呼んできてちょうどいい。裏の教会で婚約式を挙げます。

マライア

婚約式？

トービー

あの使いと？

オリヴィア

そうなのよ。あれだけかたくなだったのに、急にいって言  
いだしたの。僕でなければ喜んでつて、二つ返事。まるで別

人。

トービー

へえ。 オリヴィア 早く外堀を埋めるわよ。あの人の気が変わらないうちに。

マライア

かしこまりました。

フェステ

お嬢さま。おめでとうございます。

オリヴィア

ありがとう。ああ、幸せで息が苦しい。

オリヴィアとマライア、行く。

トービー タイミングを逃したな。  
フェステ 行きましょう。

二人、行く。

マルヴォーリオ、ひとり。

マルヴォーリオ 好きです。結婚してください。違うな。愛している、オリヴィア。妻になつていただきたい。これかな。オリヴィア。オリヴィア。

オリヴィア、現れる。機嫌がいい。

オリヴィア なあに？

マルヴォーリオ お嬢さま。

オリヴィア どうしたの、仰々しく名前なんか呼んで。

マルヴォーリオ 確かに、お手紙受け取りました。

オリヴィア 手紙？

マルヴォーリオ 私もお嬢さまと同じ気持ちであります。共に歩んでいきましょう。

オリヴィア そうね、これからもよろしく。（行こうとする）

マルヴォーリオ あの。

オリヴィア ごめんなさい、準備があるの。婚約式をするのよ。

マルヴォーリオ 婚約式。

オリヴィア 後でね。

オリヴィア、行く。

マルヴォーリオ オリヴィア。私は間違つていなかつた。

マライア、来る。

マライア お嬢さまは？

マルヴォーリオ いま、あちらに。

マライア お嬢さま。指輪のサイズが。（行く）

マルヴォーリオ 私は20号だ。しまつた、普段着だぞ。

マライア （戻り、通過しつつ）ヴェールとドレス、ヴェールとドレス。

マルヴォーリオ マライア。

マライア はい。

マルヴォーリオ すまないが、私のタキシードも用意してくれ。

マライア 何で？

マルヴォーリオ 何でつて。正装だろう。

マライア はあ。

マルヴォーリオ 賴む。

マライア 私が？

マルヴォーリオ (主人として) これからも、よろしく。

マライア (気づき) はい。失礼します。

マライア、行く。

マルヴォーリオ 戸惑うよな。これまでの執事が、急に屋敷の主人だもんな。ちりんちりん、オリヴィアと私の部屋まで朝のお紅茶を。かしこまりました、旦那様。なんてな。ああ、楽しみだ。仕事もちゃんとするんだ。広大な領地。夜ごとの舞踏会。噂のまとになるぞ。ねえ知つてる? あそこの執事のマルヴォーリオが、女主人のオリヴィア様のハートを射止めなすつたのよ。ほら見て、あの綺麗な人。誰? だから、あれがマルヴォーリオよ。やだ綺麗、あんな人と同じ屋根の下で寝起きしてたら、おかしくなつちやうのも無理ないわ。本当ね、うらやましい。あたしも欲しい、綺麗な執事。差し上げます、綺麗な私。ああ、マルヴォーリオ。何て素敵で、輝かしい存在。

オリヴィア、来る。大混乱している。

オリヴィア 何てこと。ああ、何てこと。息が苦しい。フェステ。フェステ。

フェステ、トービー、マライア来る。

フェステ はい、ここに。どうされました?

マライア お嬢さま。

オリヴィア あの人婚約などすると言つた覚えはないと言い出したの。消えたのよ、二つ返事が。空が割れて落ちてきたみたい。ねえ、お願ひ、どういうことか聞いてきてもらえない? わかりました。

マルヴォーリオ お嬢さま、私ならここに。

オリヴィア 大丈夫、ありがとう。若い人同士の方が話も早いと思うから。

フェステ フェステ、お願ひ。

フェステ 行ってきます。(行く)

オリヴィア これは何？ お天氣雨？ いわゆる狐の嫁入りかしら？ だ  
といいけど、もしそうじやなくて、本当の絶望だとしたら？

ダメ、もたない。私の心臓がもたない。

マルヴォーリオ お嬢さま。私がおります。

オリヴィア マルヴォーリオ。そうね、ありがとう。私が滝から飛び降り  
そうになつても、縄で大木に括り付けてちようだいね。

マルヴォーリオ 愛してる。

オリヴィア 私もよ、マルヴォーリオ。

フェステ（声） お嬢さま、お嬢さま、お嬢さま。

フェステ、戻る。

オリヴィア どうだつた？

フェステ どうもこうも。あの使いは、双子でした。

オリヴィア・マライア・トービー 双子？

フェステ お嬢さまが口説いていた使いは、実は女で、主人である公爵  
を好きとのこと。で、さつき婚約をOKしたのは双子の兄。  
いま表で並んできますけど、そつくりで、見分けつけません。

一同、フェステの戻ってきた方向を見る。

オリヴィア 本當だ。

マライア そつくり。

トービー 手振つてる。おーい（振りかえす）はは、投げキツスしてゐる。

フェステ 兄の方だ。お嬢さまのこと、好きみたいですね。

マライア どうします？

オリヴィア 困つたわ。こんな展開になるなんて。でも、そうね。（手を振  
りかえす）

マルヴォーリオ お嬢さま。

オリヴィア なあに？

マルヴォーリオ 私への思いは？

オリヴィア 感謝してるわよ。

マルヴォーリオ 私への愛は？

オリヴィア 愛してるわ。執事としてね。

マルヴォーリオ この手紙は？

オリヴィア 手紙？

トービー まずい。

マルヴォーリオ あなたから私の手紙です。愛しのMへ、あなたのOより。思わずぶりに落ちていた。違うとは言わせません。証拠となるはこの筆跡。

オリヴィア

(見て) これ、私じゃないわ。マライア、あなた?

マライア

え?

トービー

ああ。

フェステ

かな。

マルヴォーリオ

え?

マライア・トービー・フェステ

申し訳ありません。

トービー

この執事の出過ぎた真似を、少々懲らしめようとしたまで。

マルヴォーリオ

何?

フェステ

さもないと、僕たち追い出されちゃいそ娘娘たから。

マライア

書いたのは私です。

三人

すみません。

マルヴォーリオ

おまえら、

マライア

まあ、よく回る悪知恵ね。発案者はどちら?

トービー

三人です。

マルヴォーリオ

ああ。

オリヴィア

おじさん。そういうときは「私は」でしょ? あなたが唯一

トービー

私と対等にものを喋れるんだから。何、連帶責任にしてるの。すみません。

オリヴィア

マライア。この人とつるむのはいいけど、頭の中までからめとられちゃだめよ。ろくでなしに手綱を握られるんじゃなくて、あなたが握るのよ。

はい。

マライア

フェステ。この人たちと付き合つてくれてありがとう。楽しめた?

フェステ

楽しかった。

オリヴィア

本当に、どうしようもない人たち。追いだしたところで、行つた先に迷惑がかかるわ。そしたらどうなる? あの屋敷から来た人間はどれもろくなもんじやない。そう言われて恥をかくのは私じゃなくて?

マライア

はい。

トービー・フェステ・マライア

申し訳ありません。

マルヴォーリオ

ろくでなしどもめ。

オリヴィア

マルヴォーリオ。

マルヴォーリオ

はい。

オリヴィア ありがとう。あなたの気持ち、とつても嬉しい。大切な人。  
信頼してはるし、愛してはるわ。身分を越えて、立場を越えて。  
でもそれは恋ではない。わかるわね。

マルヴォーリオ はい。

オリヴィア 私の恋は、あそこにある。もう奪われてしまつたの。ここは  
空き家。忍び込んでも盗るものはない。激しい鼓動が告げて  
いる。この心の帰る場所はあの人にあると。だからみなさん。  
恩赦です。

トービー 恩赦?

オリヴィア 今私は機嫌がいいの。これからめでたい席だもの。屋敷だ  
けじやない、領地をあげてのお祭りよ。こんなときに、誰も  
いなくなつてもらいたくないわ。

マライア お嬢さま。

オリヴィア マルヴォーリオ、あなたあつての私たちよ。協力してくれる  
わね。ほら、あなた方も。

トービー・マライア・フェステ お願いします。

マルヴォーリオ もちろんです。

オリヴィア 忙しくなるわよ。門を開けて、庭を解放して。力尽くるまで  
宴会よ。

トービー オリヴィア。

オリヴィア 決めました。私、あの人と結婚します。ひよんなご縁でつな  
がる縛。結んで見せます常世(どこよ)まで。

マルヴォーリオ お嬢さま。

フェステ ご結婚、  
トービー・フェステ・マライア・マルヴォーリオ おめでとうござります。

皆が行く中、マルヴォーリオ、ひとり残る。

マルヴォーリオ だまされた。

フェステ、来る。

フェステ  
マルヴォーリオ  
フェステ 帰ろう。  
マルヴォーリオ うん。

つねさん。  
綾田。

二人、行く。

## 『から騒ぎ』

※ 框で囲まれている部分は、実際の上演環境に合わせて変更すること。

1

俳優1、現れる。

俳優1

こんにちは／こんばんはー。【つねさん】といいます。俳優です。初めましての方は、初めまして。そうでない方は、お久しぶりです。いやあ、暑いですねえ。ねえ。まいっちやいますねえ。僕なんかもう、暑いの弱くて。もうね、動く気しなくなっちゃう。あれ、わかりますね、暑い国の人たちが、シェスターって言って昼寝するの。仕事なんか絶対しない。店なんかのきなみシヤツタ一降りちゃう。だつてねえ、一番暑い時間ですもんね。基本、昼間はあんまり出歩かない。その代り、日が沈んだらもう、街やたまり場に繰り出して、老いも若きもぶんちやかぶんちやか。子供から老人まで、あつちこつちで飲んだり食べたり喋ったり。えつじやあいつ働くの？って感じですけど、まあ、どうにかなつちやうんでしょうね。働く人が、必要最低限なくらいに、適度に働いて。一方で、遊ぶ人は、適度以上に遊ぶ。人生を楽しむ。いいですね。何か、感覚的には、僕らは逆ですよね。たいがいの人が適度以上に働いて、余った時間でちよこつとだけ、遊べるときに遊ぶ。（溜息）豊かさつていつたいなんだろうなつて、考えちやいますよね。人生これ、社会の歯車。うむ。これはもうね、しようがないですね。自由に見える芸術家だつて、えらーい何かの先生だつて、社会の大切な歯車の一つです。誰一人、例外は居ない。みんなどこかでかみ合つてる。それで、場面によつて、主になつたり、従になつたりして、いろんな人といろんな関係をつくりあげていくんです。それでね、そう、聞いて聞いて。僕、考えたの。何で人は恋をあんなにしたがるんだろうつて。だつてさ、別にしなくともいいじゃん、恋なんて。好きだなつて思う人が出てくるまで一人で楽しく暮らしてたつていいじゃん。なのに、恋しなくちゃダメだぞつて。余計なお世話ですね。でもね、一つわかつたこと。恋をすると、人は思いつきり、自分の感情に支配される。そして自分と

相手のことが考えの中央にくる。つまり、自分と相手を主役にした物語が展開されることになるんです。これです。恋をすると、社会の歯車にすぎない存在が、急に主役になれるんです。これはね、麻薬以上に麻薬ですよ。

## 俳優2、現れる。

何やつてんの。  
何つて、ねえ。前説。  
何の。  
え？ えと、から騒ぎ。  
こんなところで？  
え？ だつてここ、  
俳優2 俳優1 俳優2 俳優1 俳優2 俳優1 俳優2  
（警部として）不審者発見、者ども、出会え出会え。

夜番1・2・3、「御用だ」「御用だ」と現れ、  
俳優1を取り囲む。

えつ、えつ、えつ？  
警部 俳優1 警部 俳優1 警部 俳優1 警部 俳優1 警部 俳優1 警部 俳優1  
婚礼を明日に控えたレオナート殿の御屋敷前で、一人虚空に向かって呟く不審者を発見。聞けば何等かの陰謀に加担せしとのこと。夜番、間違いはないな。  
へい。  
さようで。  
この耳でしつかと。  
何が？ 何を？  
問答無用。ひとつらえろ。  
(俳優1を捉え) 御用だ。  
ちょっと待つてよお。  
とつたり。  
えー。  
夜番たち お見事。



安を預かるのが、

警部・夜番1・2・3 我々、メシーナ・ジャツカル隊  
そしてその本部となる建物の、お勝手口から

そしてその本部となる建物の、お勝手口から出て少し歩いて脇の小道をちょっと行ったところにある離れの東側に増築した部屋の裏側にある元馬屋を改造した納屋の地下にあるのが、この取調室だ。

俳優 1 わからない。

そしてこれは、私の有能な部下だ。番号いち。

さん。

警部  
昔は五十人ほどいた部下もいまはたつたの三人だ。わかるか。  
治安が良くなつたからだ。わかるか。多くの人数を割く必要が  
なくなつたからだ。わかるか。これもみな、誰のおかげだ？

万歳、万歳、ばんざーい。

わからぬよ。ねえ、これほどいてくださいよ。

ナカジマ、と言つたな

はい。

日本です。

二ホン

ああ、ええ

「ですか？」

## メシーナたん イタリア半島

シチリア島がこうあって、

「才女」の説が和事を動かす地。そこで我々はその和事より答へ

備をおおせつかつてゐる。いわば、公務員

公務員。

貴様のような流れ者とは地位が違うのだ  
わかつたか。

は  
い  
。

それで、どこから来た。





警部

時は夏、所はイタリア。アラゴンの領主ドン・ペドロー殿の部隊、戦を終えて大勝利のもと凱旋し、逗留するはこの地メシナ。そこまでは知つてゐるな?

俳優 1

いえ、知りませんけど、はい。  
その部隊に属すはクローディオ伯爵。お若いながらも武人としては正に若獅子、誉れ高きお方。この度の戦でもその健闘に対しドン・ペドローより恩賞が与えられた。

俳優 1

強いんですね。  
さて一方、ヒーロー殿。レオナート知事の一人娘で愛娘。まなこに入れても痛くはないと、瞳の中ではそれはと大切に、瞼にくるんでもつ毛でなでて、蝶よ花よと育てた娘。そのヒーロー殿を見初めた今一つのまなこ。若きライオンクローディオ。あっぱれ。

俳優 1

顧つてもない見事な縁談、めでたく進む婚姻の運び。これすなわちレオナート殿が引退された暁には、我々の次なるバスはクローディオ伯となるということ。つまり、明日の結婚式は、我々にとつて新たなるバスの天下のお披露目。

夜番たち

しかしながら、それを妨害しようというのが、貴様のご挨拶。

夜番たち

すわ、許すまじ。

夜番たち

迷惑千万。

警部

さあさあ貴様、いかような腹積もり。  
だから、どんなつもりもありませんつてば。

俳優 1

ここ、この舞台で、みなさんに向かつて。あの偉そうな人、警部ですか、彼／彼女は俳優で、**小林あや**つて言つて、僕はふだん**あやさん**つて呼んでます。あの部下は、**近藤くん**、通称**ヨンミキ**と、**綾田**と、**齋藤くん**、通称**まこちゃん**。あんなにいつぱい稽古して、一緒にご飯も食べたのに、今はもう、何にも聞いてくれません。困ったなあ。いや、でも違う。やっぱり僕は、何も悪いことはしていない。僕はここで、僕の役目を果たして

俳優 1

変なところに来ちやいました。どうしよう、全然聞いてくれないし。ねえ、わかるでしょ。僕は前説をしてただけなんです。ここ、この舞台で、みなさんに向かつて。あの偉そうな人、警部ですか、彼／彼女は俳優で、**小林あや**つて言つて、僕はふだん**あやさん**つて呼んでます。あの部下は、**近藤くん**、通称**ヨンミキ**と、**綾田**と、**齋藤くん**、通称**まこちゃん**。あんなにいつぱい稽古して、一緒にご飯も食べたのに、今はもう、何にも聞いてくれません。困ったなあ。いや、でも違う。やっぱり僕は、何も悪いことはしていない。僕はここで、僕の役目を果たして

ただけだ。仕事です。俳優としての、仕事。責められることなんて何一つ。死刑？ううん、冗談じやない。一生懸命やつてるだけで殺されるなんて、そんな理不尽、あつたもんじやない。よし、説得しよう。僕は、清廉潔白です。僕は、清廉潔白です。

4

嘘だな。  
えつ。

コバヤシアヤとは何者だ。女か？

俳優 1 聞いてた？

警部・夜番たち うん。

俳優 1 聞こえてた？

警部・夜番たち うん。

俳優 1 あの、今のはモノローグといって、お客様とその役だけが共

有する心の中の独り言で、  
女がいるのか、貴様。

警部 俳優 1 聞け。

答える。女がいるのかと聞いているんだ。

……本当のことと言いますよ。

望むところだ。

警部 俳優 1 います。妻が一人。

ふむ。おまえは今、その妻と離れてここに居るのか。

ええ、妻には妻の生活がありますから。四六時中一緒つてわけ

には。

ふうん。妻と離れてまで、ご挨拶をね。

警部 よろしいでしょうか。

よろしい。何だ。

婚礼の妨害ではなく、他の目的があつたのではないでしようか。

例えば何だ。

恐れながら私めが。例えば、ヒーロー様のいとこ、ベアトリス様が目当てということは、考えられませんでしようか。

ベアトリス様。

あの美しいながらも才気が溢れすぎて口数の山をわんさと築くおてんば姫。

恐れながら私めも。結婚式に首尾よく紛れ込みベアトリス様に

夜番 3

警部 夜番 2

警部 夜番 1

お目通りするために、一人屋敷の前にてご挨拶の練習をしていたのではないでしようか。

警部

ベアトリス様はヒーロー様のいとこでありながら親友、そのことはこのメシーナでは知らぬ者はない。あいや、わかつた。貴様、ベアトリス様のストーカーだな。

違わない。記録。

は

ストーカーに御は。

一応入れとけ。無くて損より、あつて損だ。礼を欠いたら打ち

このたまに入る江戸文化は何だろう。

六九三

ベアトリス様のどこが好ましい？その内容いかんによつては恩

赦が出るかも知れんぞ。何せ天下きつてのじやじや馬乗り

卷之三

いや、でも、お会いしたことないですし。顔だつて見たこと、

靈巒集

あんなにお美しいんだぞ。

一回くらい覗き見たことないわけない

でも、それなりに我々も遭遇してますよ。

あそつか。

運営司会場があるとした

どうだ、おしゃれ。

知らないよ。

我々のお気に入りの覗き場は  
おひ。警備ス。ポツト。

そうだ。警備スポットは、ほら、お屋敷の裏庭あるだろう。お

屋敷に向かつて右手に、生垣の薄いところがあつて、そこから

二ーが見えるんだ。

毎晩月明かりの下、お一人で夜風を浴びながら髪をとかす。語

りながら、笑いながら。そのお美しさつたらもう。

天使がふるさと天国についての噂話をしているかのようだ。

夜番1

警部

警部・夜番たち

夜番3

警部

警部・夜番たち

夜番1

警部

警部・夜番たち

夜番2

警部

警部・夜番たち

夜番3

警部

警部・夜番たち

夜番1

警部

警部・夜番たち

夜番2

警部

警部・夜番たち

夜番3

警部

警部・夜番たち

夜番1

警部

警部・夜番たち

夜番2

警部

警部・夜番たち

夜番3

警部

警部・夜番たち

夜番1

俳優1

ん？

警部

警部

夜番1

俳優1

片方の天使はこの度めでたく花嫁になる。

もう片方もいざれお幸せになる。しかしそれまでは、我々がお

守りしなくては。

変な虫は寄せ付けない。

悪い虫は根絶やしに。

守り抜かん、乙女の純潔。

それが我々、

守り抜かん、乙女の純潔。

警部・夜番たち メシーナ・ジャッカル隊。

警部・夜番たち の、サブテーマだ。

俳優1 そうですか。

夜番2 なあ、おしえろよ。おまえのスポット。

夜番1 こつちも連れてつてやるからよ。

警部 こういうのはさ、横のつながり大切だから。

警部・夜番たち へつへつへつへ。

俳優1 知りません。

夜番3 秘密主義だな。

何だ？ 一人秘密保護法か？

警部 独立国家だなあ、おい。

夜番1 一人国家か、治安良さそуда.

俳優1 知りません。その誰ですか、ベアトリス？ そんな人、会った

ことないです。

会えるわけないだろう、貴様のような流れ者ごときが。

我々だって覗き見が関の山だ。

つていうか、ヒーローもだけど、から騒ぎの登場人物ですよね、ベアトリス。ベネディックと最終的にくつつく。

警部・夜番たち (俳優1を見る)

俳優1 なぜ、ベネディック伯爵の名を？

貴様。部隊の関係者だな。

え？ はい、舞台関係者ですけど。

どこの部隊だ。

ええ、ええと、七転八倒カンペニーといつて、僕明治出身なん  
ですけど、学生劇団の卒業生で旗揚げした団体で、

旗揚げだ？

えつ。そういう言い方しませんか？

貴様、さてはドン・ジョン伯爵の一昧だな。

誰？

ドン・ジョン。知らないとは言わせない。いまここに逗留している部隊の長でありアラゴン州の領主であるドン・ペドロ一殿、の弟君。

アラゴン州。

ヨーロッパがこうあって。

これがイベリア半島で。

その北東部。こらへん。

昨年、ドン・ジョン一味は、兄ドン・ペドロ一殿に対するクーデターを起こした。すなわち、反乱軍を旗揚げした。

クーデターは失敗し、寛大な兄は弟と和解の手打ち。

いまドン・ジョンは兄の部隊の一員として戦に出ている。

しかしおさまらないのはドン・ジョンの反抗心。

いつだって、面白くない、浮かない顔で馬上の暮らし。

この度のクローディオ伯の婚礼についても、ドン・ジョンにとっては不機嫌の上塗り。

何等かの妨害工作を画策するのは、あり得ること。

ナカジマ。おまえの女は今どこにいる。

えつ。ちょっと、わかりませんけど。連絡とつてみないと。

どうやつて連絡をとる。手旗か、合図か、伝書鳩か。もしくは秘密の糸電話か。

はい？

屋敷の中に、密偵として放たれているのではあるまい。

ええ？ いや、

貴様のご挨拶と女の密偵。この二つでどこかの誰かを陥れるつもりなのではあるまい。

そんなつもりはありませんて。

記録。

は。

御屋敷前で捕縛した者、自ら手籠めにした女を使い、何等かの陰謀を画策せし模様。これよりその内容を明らかにせん。

ええー。

急ぎ、レオナート殿へ。

は。（行く）

逃さんぞ。

警部

警部

夜番

3

警部

夜番

3

警部

俳優

1

夜番

2

俳優  
1

ええー。

俳優  
1

5

困った事態になりました。僕はから騒ぎ本編の内容を知つていいので、ドン・ジョンという男がいかに悪役に描かれているか、誰知っています。人生を楽しめず、いつも不平ばかり言って、誰かを貶めようとばかりしている男です。その一味にされるとなると、このお話しの中では、完全にワル扱い。処罰対象。つまり、最終的に虐げられてもやむを得ないポジションです。参つたなあ。そこ置かれると困るんだけど。ねえ、伊藤くん、これ最後までやんなきやだめ？あ、伊藤つていうのは演出です。照明もやつてるんで、いまはあのブースにいます。ねえ、伊藤くん。これちよつと、作家が書いた流れと違うよね。伊藤くん。（返事なし）無視かよ。困つたな。ねえ、困るんです。舞台上の俳優つて、誰にも助けられないんです。お話が無事終わることだけが、俳優をもとの日常世界に返してくれるんです。だから僕はこのお話を終えるしかない。しかないんだけど。

67

6

楽しいか。  
何がです。

その、独り

モノローグ

そろそろ教

何が

貴様がたぐ

だから何を

大井食

元國の書

二〇四

後悔するぞ

警部 俳優 1 警部 俳優 1 警部 俳優 1  
警部 俳優 1 警部 俳優 1 警部 俳優 1  
夜番 1 夜番 1 夜番 1 夜番 1

俳優 1  
警部

しませんよ。清廉潔白なんですか。  
仮にだ。貴様の女が屋敷に潜り込んでいるとしよう。そうだな、

例えは、ヒーロー様とベアトリス様の一一番身近な召使のマーガレットのような立場で。そしてヒーロー様あるいはベアトリス様に近づき、取り入るのが貴様のげびた目的だとしよう。

俳優 1  
警部

げびたって。

何等かの催しものの際に客のような顔をしてもぐりこみ、懇意なマーガレットの手引きがあれば、貴様は見事、お二人の前に出てご挨拶することが出来る。ほら。

俳優 1  
警部

つながった。貴様と女と、ご挨拶。

俳優 1  
警部

やつてろよ。で、どうすんの、これから。僕、帰りたいんだけど

どう。

俳優 1  
警部

やつて……  
ならん。

俳優 1  
警部

そもそも、どこに帰るんだ。

俳優 1  
警部

家ですよ、家。**江古田**の部屋。

俳優 1  
警部

どうやつて帰る。

夜番 3 戻る。

戻りました。

ご苦労。

一つ、ご報告が。

何だ。

夜番 1・2  
警部

ヒーロー様とクローディオ伯の御婚礼が、破談になりました。

夜番 3  
警部

ヒーロー様が昨夜、何者かと密通しているところを、クローディオー伯爵殿とドン・ペドロー殿が目撃。激怒したクローディオ伯は、誓いの言葉を述べ合わんとするそのときに、ヒーロー

様の不義をののしり、破談を申し立てたとのこと。

ヒーロー様は。

無実を訴えながら、氣を失われたらしい。

ベアトリス様は。

ヒーロー様に付き添つておられる。泣き腫らして、目は真っ赤夜番 1  
夜番 2  
夜番 3

夜番 1  
夜番 2  
夜番 3

ヒーロー様に付き添つておられる。泣き腫らして、目は真っ赤

だ

おかわいそうに。

日文

九

はい。

よか

どうやら」とです。

1

貴様の女、マーガレットの手引きで。

違います。

ヒーロー隊

んだ。  
違

違います。

二挨拶毛

ノルの手

卷之三

ヨリ  
様こ白

だ。  
靠う。

違  
う。

警部  
俳優  
1

（かぶせて）遣<sup>ハシマ</sup>とは言わせない なせたら今は1600年  
魔女狩りいまだはなやかなりし、疑わしきは罰せよの時代。人

俳優  
1

俳優1、出て行こうとするが、夜番たちに阻まれ、拘束される。

疑わしきは罰する。よつて、死刑。

(記録し) 死刑。

警部 伯爵 身元不明の不審者を我々の手で処刑する。伯爵に伝える。

えつ。

は。銃の用意。

は。

たんま。たんま、たんま。ちょっと、ちょっと待つてよ、そういうんじやなくてさ。もっとあるじやん。

もはや聞くことは何もない。行け。

夜番1・2は。（行く）

ストップ。待つて。落ち着いて。僕の話を聞いて。聞いて。僕は真実、本当に、まごうことなく、嘘いつわりなく潔白です。僕あ、そうだ、神。神に誓う。僕は、怪しいことは何にもしていません。

は。記録。

せめて書きとどめてやれ。今際の際の遺言だ。おい、好きなだけ喋つていいぞ、貴様の好きな独り言をな。

ええ、もう。モノローグだってば。やだよう。どうしてこんなことに。僕は本当に、ここにいる人たちに害を及ぼすようなことは何一つしていない。何一つ。いやそれだけじやない、日常だってそうだ。できるだけ他人を傷つけないよう、同時に自分も傷つけないよう、そりや至らないことだってままあるけど、それなりに配慮して生きてきたつもりだ。それが何だ。死刑？ううん、意味がわからない。こんなのは変だ、おかしいよ。わからぬまま、僕は死ぬ。死ぬ？え、死ぬの？それ本気？でも抵抗しようにも、丸腰だ。どうしよう、やだ、死にたくない、死にたくないよ。いや違う。何で素直に従う必要があるんだ？いいよ、そんな必要ないよ。だってたった一つの僕の命、たつた一度の僕の人生。大にして、どうしてバチがあたる？よし、もういい。素直な良い子は卒業だ。すみません、帰ります。どこへ。

江古田の、妻が待つ部屋へ。ささやかながら、住みよい我が家だ。

貴様、俳優だろう。

俳優であると同時に、一人の人間だ。この空騒ぎにはつきえない。

（戻り）銃です。

は。

夜番2 警部 俳優1

夜番3 警部 俳優1



警部  
夜番 1 ふうん。

よつてその者はこの件については無実。よつて、特に実害ない  
ようであれば、ただちに釈放されたし。よつて、無用な処罰は  
行わぬがよしとのこと。

俳優 1 はー。

あ、そう。うーんと。そうね。  
(銃を)かたします?

警部  
夜番 2 あ、うん、そうね。

警部  
夜番 3 (拘束を)はずします?

警部  
夜番 1 あ、うん、そうして。

尚、明日、改めて婚礼の儀を行うゆえ、皆さんも是非ご出席さ  
れだし。**ナカジマ**様もよろしければ是非。以上です。

俳優 1 …

ご結婚、  
警部  
警部・夜番たち おめでとうございます。

俳優 1 とんだ空騒ぎだ。

おしまい。

〔参考資料〕

原作とあわせ、小田島雄志氏、河合祥一郎氏、松岡和子氏の翻訳を参照しました。